

令和4事業年度

事業報告書

日本中央競馬会

I 業務の実施状況

1. 令和4事業年度の業務の実施状況

(1) 競馬の実施等

① 競馬の開催状況

・開催回数 36回 ・開催日数 288日

(内訳)

競馬場	開催回数	開催日数	競馬場	開催回数	開催日数
札幌競馬場	2回	14日	東京競馬場	5回	45日
函館競馬場	1回	12日	中京競馬場	6回	45日
福島競馬場	3回	20日	京都競馬場	0回	0日
新潟競馬場	4回	26日	阪神競馬場	6回	54日
中山競馬場	5回	42日	小倉競馬場	4回	30日

② 売得金及び開催競馬場入場人員

売得金	3兆2,736億8,192万8,500円
開催競馬場入場人員	279万0,937人

③ 国庫納付金

第1国庫納付金	3,273億6,819万2,850円
第2国庫納付金	418億9,334万0,638円

④ 主な業績項目の数値

項目		数式	本事業年度数値
競馬開催計画 達成率	開催回数	開催実施回数／開催計画回数	100%
	開催日数	開催実施日数／開催計画日数	100%
職員一人当り の効率	対売上収入	売得金／職員数	1,840,180千円
	対入場人員	開催競馬場入場人員／職員数	1,568人
対売上収益率		剰余金／売得金	2.56%

(2) 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録

登録の種類	〔J R A所属〕			〔その他〕 ※ i ii	
	登録の数	取消の数	本事業年度末数	国際関係	地方関係
馬主の登録	174名	106名	2,740名	4(8)名	37名
馬の登録	5,330頭	5,168頭	9,052頭	5(5)頭	59頭
服色の登録	128件	110件	2,044件	4(8)件	—

※ i 「国際関係」：国際交流競走に係わる登録の数（カッコ内は取消の数）

ii 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる登録の数（取消の数は登録と同数）

(3) 調教師及び騎手の免許

免許の種類	〔J R A所属〕 ※ i ii			〔その他〕 ※ iii iv v		
	免許の数	取消の数	本事業年度末数	短期	国際関係	地方関係
調教師の免許	190名	0名	190名	—	5名	48名
騎手の免許	149名	3名	146名	10名	9名	39名

※ i 「免許の数」：3月1日付免許者数

ii 「取消の数」：免許期間を満了せずに事業年度途中で取り消した者の数

iii 「短期」：臨時試験による短期騎手免許者数（延人数）

iv 「国際関係」：国際交流競走・国際騎手招待競走に係わる免許者数（延人数）

v 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる免許者数（延人数）

(4) 競走馬の育成

日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、育成研究を目的として市場購買馬（令和3年購買の2歳馬74頭及び令和4年購買の1歳馬74頭）の育成を行いました。

また、日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、生産育成研究を目的としてJ R A生産馬（当歳8頭、1歳9頭及び2歳9頭）の育成を行いました。

(5) 騎手の養成・訓練

競馬学校において騎手の養成を行い、9名が卒業しました。令和4事業年度末現在の在校生数は21名となっています。

(6) 日本中央競馬会法第19条第2項第4号に掲げる業務

上記(1)～(5)の業務のほか、競馬の健全な発展を図るため必要な業務を行いました。

そのうち、特別振興資金を使用して、競馬振興事業を実施しました。

合計金額 113億8,196万9,475円

(7) 畜産振興事業

特別振興資金を使用して、畜産振興事業を実施しました。

合計金額 42億4,538万0,993円

(8) 払戻金への上乗せ

特別振興資金を使用して、1号給付金及び2号給付金を払戻金に上乗せしました。

1号給付金 32億1,622万5,820円

2号給付金 34億7,807万3,900円

合計金額 66億9,429万9,720円

(9) 競走馬生産振興業務への交付

地方競馬全国協会が行う「競走馬生産振興業務」に対して、特別振興資金を使用して、交付金を交付しました。

合計金額 23億1,600万0,000円

(10) 認定競馬活性化計画補助業務への交付

地方競馬全国協会が行う「認定競馬活性化計画補助業務」に対して、特別振興資金を使用して、交付金を交付しました。

合計金額 16億3,650万9,907円

(11) 借入金、財政投融资資金及び国庫補助金等による資金調達の状況

該当ありません。

2. 前事業年度までにおける業務の実施状況

(1) 競馬の実施等

① 競馬の開催状況

事業年度	令和元年		令和2年		令和3年	
	開催回数	開催日数	開催回数	開催日数	開催回数	開催日数
札幌競馬場	2回	12日	2回	14日	2回	14日
函館競馬場	2回	12日	2回	12日	1回	12日
福島競馬場	3回	20日	3回	20日	2回	12日
新潟競馬場	3回	26日	4回	26日	5回	36日
中山競馬場	5回	41日	5回	43日	5回	42日
東京競馬場	5回	45日	5回	45日	5回	44日
中京競馬場	4回	26日	3回	23日	6回	45日
京都競馬場	5回	44日	4回	37日	0回	0日
阪神競馬場	5回	42日	6回	48日	6回	53日
小倉競馬場	2回	20日	2回	20日	4回	30日
合計	36回	288日	36回	288日	36回	288日

② 売得金及び開催競馬場入場人員

事業年度	売得金	開催競馬場入場人員
令和元年	2兆8,995億6,228万3,100円	623万6,197人
令和2年	2兆9,911億8,723万7,800円	99万0,970人
令和3年	3兆1,079億6,007万3,800円	72万2,670人

③ 国庫納付金

事業年度	第1国庫納付金	第2国庫納付金
令和元年	2,899億5,622万8,310円	305億7,183万7,819円
令和2年	2,991億1,872万3,780円	307億6,446万8,332円
令和3年	3,107億9,600万7,380円	355億8,042万0,971円

④ 主な業績項目の数値

項 目		令和元年	令和2年	令和3年
競馬開催計画 達成率	開催回数	100%	100%	100%
	開催日数	100%	100%	100%
職員一人当り の効率	対売上収入	1,642,811 千円	1,681,386 千円	1,747,026 千円
	対入場人員	3,533 人	557 人	406 人
対売上収益率		2.10%	2.05%	2.28%

(2) 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録

① 馬主の登録

事業年度	〔JRA所属〕			〔その他〕※ i ii	
	登録の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
令和元年	165 名	70 名	2,568 名	0(2) 名	31 名
令和2年	135 名	104 名	2,599 名	1(8) 名	31 名
令和3年	174 名	101 名	2,672 名	2(2) 名	22 名

② 馬の登録

事業年度	〔JRA所属〕			〔その他〕※ i ii	
	登録の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
令和元年	5,528 頭	5,322 頭	8,803 頭	0(0) 頭	76 頭
令和2年	5,330 頭	5,222 頭	8,911 頭	1(1) 頭	79 頭
令和3年	5,282 頭	5,303 頭	8,890 頭	3(3) 頭	54 頭

③ 服色の登録

事業年度	〔JRA所属〕			〔その他〕※ i
	登録の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係
令和元年	132 件	89 件	1,978 件	0(2) 件
令和2年	134 件	108 件	2,004 件	1(8) 件
令和3年	122 件	100 件	2,026 件	2(2) 件

※ i 「国際関係」：国際交流競走に係わる登録の数（カッコ内は取消の数）

ii 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる登録の数（取消の数は登録と同数）

(3) 調教師及び騎手の免許

① 調教師の免許

事業年度	〔J R A所属〕 ※ i ii			〔その他〕 ※ iv vi	
	免許の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
令和元年	190名	0名	190名	0名	68名
令和2年	197名	3名	194名	1名	70名
令和3年	193名	1名	192名	2名	47名

② 騎手の免許

事業年度	〔J R A所属〕 ※ i ii			〔その他〕 ※ iii iv v vi			
	免許の数	取消の数	当該事業年度末数	短期	国際関係	特別条件	地方関係
令和元年	141名	3名	138名	12名	5名	1名	71名
令和2年	140名	5名	135名	7名	0名	—	49名
令和3年	141名	2名	139名	1名	2名	—	10名

- ※ i 「免許の数」 : 3月1日付免許者数
 ii 「取消の数」 : 免許期間を満了せずに事業年度途中で取り消した者の数
 iii 「短期」 : 臨時試験による短期騎手免許者数 (延人数)
 iv 「国際関係」 : 国際交流競走・国際騎手招待競走に係わる免許者数 (延人数)
 v 「特別条件」 : 特別条件該当者に対する臨時試験による1日限定の免許者数
 vi 「地方関係」 : 地方競馬との指定交流競走に係わる免許者数 (延人数)

(4) 競走馬の育成

事業年度	育成頭数	(内訳)	当歳馬	1歳馬	2歳馬
			令和元年	174(24)頭	9(9)頭
令和2年	177(27)頭	9(9)頭	84(9)頭	84(9)頭	
令和3年	176(27)頭	9(9)頭	83(9)頭	84(9)頭	

※ ()内は育成したJ R A生産馬の頭数 (内数)

(5) 騎手の養成・訓練

事業年度	競馬学校卒業者数	当該事業年度末在校生数
令和元年	7名	21名
令和2年	4名	25名
令和3年	8名	25名

(6) 日本中央競馬会法第19条第2項第4号に掲げる業務

- ① 令和元年、令和2年及び令和3年の各事業年度において、上記(1)～(5)の業務のほか、競馬の健全な発展を図るため必要な業務を実施しました。
- ② 競馬振興事業

事業年度	金額
令和元年	258億8,058万4,536円
令和2年	117億1,689万5,378円
令和3年	109億8,416万6,688円

(7) 畜産振興事業

事業年度	金額
令和元年	45億6,588万1,420円
令和2年	39億6,131万6,004円
令和3年	39億6,408万4,897円

(8) 払戻金への上乗せ

事業年度	金額	1号給付金	2号給付金
令和元年	64億7,166万8,810円	31億6,194万2,790円	33億0,972万6,020円
令和2年	66億2,186万1,060円	32億3,943万3,090円	33億8,242万7,970円
令和3年	66億8,632万9,170円	33億6,238万9,360円	33億2,393万9,810円

(9) 競走馬生産振興業務への交付

事業年度	金額
令和元年	13億2,000万0,000円
令和2年	23億1,600万0,000円
令和3年	13億8,600万0,000円

(10) 認定競馬活性化計画補助業務への交付

事業年度	金額
令和元年	11億5,026万4,300円
令和2年	27億3,986万3,495円
令和3年	12億9,126万4,274円

(11) 借入金、財政投融资資金及び国庫補助金等による資金調達状況

令和元年、令和2年及び令和3年の各事業年度において、該当ありません。

Ⅱ 日本中央競馬会の概要

1. 業務の内容

日本中央競馬会は、競馬の健全な発展を図って馬の改良増殖その他畜産の振興に寄与することを目的とし、その目的を達成するため次の業務を行うことが法定されています。

(1) 業務内容

- ① 中央競馬の実施
- ② 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録
- ③ 調教師及び騎手の免許
- ④ 競走馬の育成
- ⑤ 騎手の養成・訓練
- ⑥ 競馬法第 21 条の規定により委託を受ける競馬の実施に関する事務
- ⑦ その他競馬の健全な発展を図るため必要な業務
- ⑧ 畜産振興事業等について助成することを業務とする法人に対し、当該助成に必要な資金の全部又は一部を交付する業務
- ⑨ 競馬法附則第 5 条第 1 項第 1 号及び第 2 号に規定する当該勝馬投票の的中者に対し、給付金を交付する業務
- ⑩ 地方競馬全国協会が行う競走馬生産振興業務に対し、交付金を交付する業務
- ⑪ 地方競馬全国協会が行う認定競馬活性化計画補助業務に対し、交付金を交付する業務（令和 9 事業年度までの間）

(2) 根拠規定

日本中央競馬会法（昭和 29 年 7 月 1 日法律第 205 号）第 19 条

競馬法（昭和 23 年 7 月 13 日法律第 158 号）附則第 5 条及び第 8 条

2. 各事務所の所在地

名 称	郵便番号	所 在 地	電話番号
本部	105-0003	東京都港区西新橋 1 丁目 1 番 1 号	03-3591-5251
馬事公苑	158-8523	東京都世田谷区上用賀 2 丁目 1 番 1 号	03-3429-5101
競馬学校	270-1431	千葉県白井市根 835 番地 1	047-491-0333
競走馬総合研究所	329-0412	栃木県下野市柴 1400 番 4 号	0285-44-0090
日高育成牧場	057-0171	北海道浦河郡浦河町字西舎 535 番地の 13	0146-28-1211
宮崎育成牧場	880-0036	宮崎県宮崎市花ヶ島町大原 2347 番地	0985-25-3448
栗東 トレーニング・センター	520-3085	滋賀県栗東市御園 1028 番地	077-558-0101
美浦 トレーニング・センター	300-0493	茨城県稲敷郡美浦村大字美駒 2500 番地 の 2	029-885-2111
札幌競馬場	060-0016	北海道札幌市中央区北 16 条西 16 丁目 1 番 1 号	011-726-0461
函館競馬場	042-8585	北海道函館市駒場町 12 番 2 号	0138-53-1021
福島競馬場	960-8114	福島県福島市松浪町 9 番 23 号	024-534-2121
新潟競馬場	950-3301	新潟県新潟市北区笹山 3490 番地	025-259-3141
中山競馬場	273-0037	千葉県船橋市古作 1 丁目 1 番 1 号	047-334-2222
東京競馬場	183-0024	東京都府中市日吉町 1 番地の 1	042-363-3141
中京競馬場	470-1132	愛知県豊明市間米町敷田 1225 番地	052-623-2001
京都競馬場	612-8265	京都府京都市伏見区葎島渡場島町 32 番地	075-631-3131
阪神競馬場	665-0053	兵庫県宝塚市駒の町 1 番 1 号	0798-51-7151
小倉競馬場	802-0841	福岡県北九州市小倉南区北方 4 丁目 5 番 1 号	093-962-3236

3. 資本金の総額及び政府の出資額並びにこれらの増減

資本金の総額	政府の出資額	前期末比増減
4,924,129,000 円	全額政府出資	増減なし

4. 役員の定数並びに各役員の氏名、役職、任期及び経歴等（令和4事業年度末現在）

(1) 役員の定数

理事長1人、副理事長1人、理事10人以内及び監事3人以内

(2) 各役員の氏名、役職、任期、経歴

役職	氏名	任期	経歴
理事長	後藤 正幸	2020年9月12日～2023年9月11日	日本中央競馬会 常務理事
副理事長	本川 一善	2020年3月1日～2023年2月28日	農林水産事務次官
常務理事	木村 一人	2021年3月1日～2023年2月28日	日本中央競馬会理事
常務理事	吉田 正義	2021年3月1日～2023年2月28日	日本中央競馬会理事
理事	臼田 雅弘	2021年3月1日～2023年2月28日	日本中央競馬会 広報部長
理事	新屋 勇人	2021年3月1日～2023年2月28日	日本中央競馬会 施設部長
理事	植木 聡	2021年3月1日～2023年2月28日	日本中央競馬会 総合企画部長
理事	清水 靖博	2021年3月1日～2023年2月28日	日本中央競馬会 プロモーション部長
理事	橋本 次郎	2021年10月1日～2023年9月30日	日本中央競馬会総括監
理事	佐野 健吉	2022年3月1日～2023年2月28日	日本中央競馬会 競走部長
理事	菊田 淳	2022年3月1日～2023年2月28日	日本中央競馬会 審判部長
監事	勝見 浩二	2021年10月1日～2023年9月30日	日本中央競馬会参与
監事 (非常勤)	田中佐知子	2022年9月16日～2024年9月15日	弁護士
監事 (非常勤)	小谷実可子	2022年9月16日～2024年9月15日	NPO法人 日本ホスピタリティ協会理事

(3) 役員の異動

- ① 2月28日付けで福田正二理事及び上野儀治理事が退任し、3月1日付けで佐野健吉前競走部長及び菊田淳前審判部長が理事に任命されました。

5. 職員の定数及びその増減（令和4事業年度末現在）

職員の定数	前期末比増減
1,779人	増減なし

6. 日本中央競馬会の沿革

昭和 29 年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本中央競馬会の設立 (9 月 16 日) 昭和 23 年に当時の「日本競馬会」の業務を継承したいわゆる「国営競馬」を引き継いで、競馬法 (昭和 23 年 7 月 13 日法律第 158 号) により競馬を行う特殊法人として、日本中央競馬会法 (昭和 29 年 7 月 1 日法律第 205 号) により設立
平成 3 年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律の施行 <ul style="list-style-type: none"> ① 馬主の登録制度並びに調教師及び騎手の免許制度の改善 ② 馬主登録等がより公正に行われるための審査会の設置 ③ 日本中央競馬会の剰余金を有効に活用するための特別振興資金及び特別給付資金の新設 ④ 競馬振興事業及び畜産振興事業の新設 ⑤ 単勝式及び複勝式の勝馬投票の的中者に対し、特別給付金を交付する特別給付業務の新設
平成 17 年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 <ul style="list-style-type: none"> ① 中央競馬の実施に関する事務を政令で定めるところにより都道府県等に委託することができることを新たに規定 ② 勝馬投票券の購入等の制限の対象から成年である学生生徒が除外 ③ 単勝式及び複勝式の払戻率を改正 (特別給付業務は平成 16 年までの分をもって終了) ○ 「行政改革の重要方針」の閣議決定 (12 月 24 日) <ul style="list-style-type: none"> ① 現行の組織形態 (特殊法人) を継続 ② 競馬の公正・中立性の確保上支障のない範囲において主務大臣の関与・規制の緩和 ③ 競争入札への移行の促進、子会社等の統合、外部監査の導入等を図ること
平成 19 年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律の施行 <ul style="list-style-type: none"> ① 経営委員会の設置 ② 農林水産大臣の関与及び規制の緩和 (規約についての関与の緩和、役員任免等に関して大臣認可を不要とすること等) ③ 1 号給付金及び 2 号給付金を交付する業務の新設
平成 24 年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 払戻金の算出方法の見直し
平成 27 年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 海外競馬の競走についての勝馬投票の実施
令和 4 年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 競馬に対する国民の信頼を確保するための措置の充実

7. 根拠法 日本中央競馬会法

8. 主務大臣 農林水産大臣

9. 経営委員会の概要（令和4事業年度末現在）

経営委員会は、日本中央競馬会法第8条の2の規定により設置され、農林水産大臣が任命する委員6人及び理事長の7人により構成されています。

(1) 各委員の氏名、任期及び職名等

氏名	任期	職名等
片山 雅文	2022年9月1日～2025年8月31日	(株)産経新聞社 常勤監査役
小林 栄三 (委員長)	2022年9月1日～2025年8月31日	伊藤忠商事(株) 名誉理事
酒井 順子	2022年9月1日～2025年8月31日	エッセイスト
田島 優子	2022年9月1日～2025年8月31日	弁護士
眞鍋 昇	2022年9月1日～2025年8月31日	大阪国際大学 学長補佐
山西健一郎 (委員長代理)	2022年9月1日～2025年8月31日	三菱電機(株) シニアアドバイザー

(2) 経営委員会の開催概要

- ① 第1回経営委員会（1月21日） ※書面表決
 - ・ 日本中央競馬会競馬施行規約の一部改正（案）の議決
 - ・ 令和4年度組織改正(案)の議決
- ② 第2回経営委員会（2月15日） ※書面表決
 - ・ 役員任命（案）についての同意
 - ・ 令和4事業年度予算実施計画（案）の議決
- ③ 第3回経営委員会（3月18日） ※書面表決
 - ・ 令和3事業年度決算（案）の議決
 - ・ 日本中央競馬会競馬施行規約の一部改正（案）の議決
- ④ 第4回経営委員会（4月13日）
 - ・ 「経営の基本方針」の一部見直し（案）の議決 ほか

- ⑤ 第5回経営委員会（5月18日）
 - ・ 日本中央競馬会職員給与規程等の一部改正（案）の議決
 - ・ 令和3事業年度経営目標の達成状況の評価（案）の議決 ほか
- ⑥ 第6回経営委員会（6月22日）
 - ・ 競走馬トラッキングシステムの導入計画の報告 ほか
- ⑦ 第7回経営委員会（7月13日）
 - ・ 日本中央競馬会が定める9月19日の払戻金に係る率（案）の議決 ほか
- ⑧ 第8回経営委員会（10月12日）
 - ・ 委員長の選任
 - ・ 委員長代理の選任
 - ・ 令和5事業年度事業計画（案）（「開催計画」「重賞競走の改善」に係る部分）の議決 ほか
- ⑨ 第9回経営委員会（11月15日）
 - ・ 令和5事業年度経営目標（案）の決定
 - ・ 令和5事業年度事業計画（案）の議決
 - ・ 令和5事業年度収支予算（案）の議決
 - ・ 日本中央競馬会競馬施行規約の一部改正（案）の議決
 - ・ 日本中央競馬会が定める12月28日の払戻金の率（案）の議決 ほか
- ⑩ 第10回経営委員会（12月14日）
 - ・ 京都競馬場グランドオープンの概要の報告 ほか

（3）委員の異動

なし

10. 運営審議会の概要（令和4事業年度末現在）

日本中央競馬会法第16条の規定により、日本中央競馬会の業務の執行に関する重要事項を調査審議するため、理事長が農林水産大臣の認可を受けて任命する者により構成される運営審議会が設置されています。

（1）各委員の氏名、任期及び職名等

氏名	任期	職名等
大西 洋	2021年9月16日～2023年9月15日	日本空港ビルデング(株) 取締役副社長
川崎 麻児	2021年9月16日～2023年9月15日	日本画家
佐藤 藍子	2021年9月16日～2023年9月15日	女優
鈴木 淑子	2021年9月16日～2023年9月15日	競馬ジャーナリスト
武 豊	2021年9月16日～2023年9月15日	日本騎手クラブ 会長
土川 健之	2021年9月16日～2023年9月15日	前 日本中央競馬会 理事長
手塚 貴久	2022年2月18日～2023年9月15日	(一社)日本調教師会 会長
西川 賢	2021年9月16日～2023年9月15日	日本馬主協会連合会 会長
蓮見 恭子	2021年9月16日～2023年9月15日	小説家
古川 雅且	2022年4月22日～2023年9月15日	日高軽種馬農業協同組合 代表理事組合長

（2）運営審議会の開催概要

① 第1回運営審議会（3月8日） ※書面表決

- ・ 令和3事業年度決算（案）について
- ・ 日本中央競馬会競馬施行規約及び日本中央競馬会競馬施行規程の一部改正について（案）

② 第2回運営審議会（10月11日） ※書面表決

- ・ 令和5事業年度事業計画（案）（「開催計画」「重賞競走の改善」に係る部分）について
- ・ 日本中央競馬会競馬施行規程の一部改正について（案）

③ 第3回運営審議会（11月10日）

- ・ 令和5事業年度事業計画（案）について
- ・ 令和5事業年度収支予算（案）について
- ・ 日本中央競馬会競馬施行規約および日本中央競馬会競馬施行規程の一部改正に

ついて（案）

④ 第4回運営審議会（令和5年1月12日）※書面表決

- ・ 日本中央競馬会競馬施行規程の一部改正について（案）

（3）委員の異動

2月17日付で橋田満委員が退任し、2月18日付で手塚貴久氏が新たに委員に任命されました。また、4月21日付で木村貢委員が退任し、4月22日付で古川雅且氏が新たに委員に任命されました。

1.1. 公正審査会議の概要（令和4事業年度末現在）

日本中央競馬会法第20条の規定に基づき、馬主の登録・抹消、調教師及び騎手の免許・取消し、行政不服審査法による審査請求に対する裁決などについて意見を聴くため、理事長が学識経験者から公正審査委員を任命し、委員による公正審査会議を開催しました。

（1）各委員の氏名、任期及び職名等

氏名	任期	職名等
石木 俊治	2021年9月7日～2023年9月6日	元 内閣法制局第四部長
石原 葵	2021年9月7日～2023年9月6日	元 日本中央競馬会副理事長
井上 美昭	2021年9月7日～2023年9月6日	元 関東管区警察局長
酒井 邦彦	2021年9月7日～2023年9月6日	弁護士
酒井 啓子	2021年9月7日～2023年9月6日	千葉大学グローバル 関係融合研究センター長
福沢 恵子	2021年9月7日～2023年9月6日	(公財)日本女性学習財団理事
堀越 礼子	2021年9月7日～2023年9月6日	(株)朝日新聞社取締役

(2) 公正審査会議の開催概要

- ① 第1回公正審査会議 (1月14日)
 - ・ 馬主登録について (相続馬限定3件)
 - ・ 馬主登録について (個人馬主による法人馬主登録3件)
- ② 第2回公正審査会議 ※書面審査 (1月28日～2月4日)
 - ・ 令和4年度調教師及び騎手免許について
 - ・ 馬主登録について (組合馬主の組合員追加3件)
 - ・ 審査請求に対する裁決について
- ③ 第3回公正審査会議 ※書面審査 (3月3日～3月11日)
 - ・ 馬主登録について (個人馬主による法人馬主登録2件)
- ④ 第4回公正審査会議 (4月7日)
 - ・ 令和4年第1回馬主登録審査に係る馬主登録について (36件)
 - ・ 馬主登録について (相続馬限定2件)
 - ・ 馬主登録について (個人馬主による法人馬主登録1件)
 - ・ 馬主登録について (組合馬主の組合員追加1件)
- ⑤ 第5回公正審査会議 (5月13日)
 - ・ 馬主登録について (相続馬限定2件)
 - ・ 馬主登録について (個人馬主による法人馬主登録1件)
- ⑥ 第6回公正審査会議 (6月3日)
- ⑦ 第7回公正審査会議 (7月7日)
 - ・ 令和4年第2回馬主登録審査に係る馬主の登録について (46件)
 - ・ 馬主登録について (相続馬限定3件)
 - ・ 馬主登録について (個人馬主による法人馬主登録3件)
 - ・ 馬主登録について (法人馬主代表者による個人馬主登録1件)
 - ・ 馬主登録について (組合馬主の組合員変更・追加2件)
 - ・ 馬主登録について (法人馬主の馬主登録取消しの猶予2件)
- ⑧ 第8回公正審査会議 (9月9日)
 - ・ 馬主登録について (個人馬主による法人馬主登録1件)
 - ・ 馬主登録について (組合馬主の組合員追加2件)
 - ・ 馬主登録について (個人馬主の馬主登録取消しの猶予1件)

⑦ 第9回公正審査会議（10月7日）

- ・ 馬主登録審査基準における経済要件の見直しの検討について
- ・ 馬主登録審査基準の改正について
- ・ 馬主登録取消ガイドラインの改正について
- ・ 馬主登録について（相続馬限定1件）
- ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録3件）
- ・ 馬主登録について（法人馬主による個人馬主登録1件）
- ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更1件）

⑧ 第10回公正審査会議（11月11日）

- ・ 令和4年第3回馬主登録審査に係る馬主の登録について（66件）
- ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主の登録2件）
- ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員の追加1件）
- ・ 馬主登録について（個人馬主の馬主登録取消しの猶予1件）

⑨ 第11回公正審査会議（12月7日）

- ・ 令和5年度調教師免許（新規）について
- ・ 馬主登録審査基準実施細則の改正について
- ・ 馬主登録について（相続馬限定2件）
- ・ 馬主登録について（法人馬主による個人馬主登録1件）
- ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員変更1件）

（3）委員の異動

なし

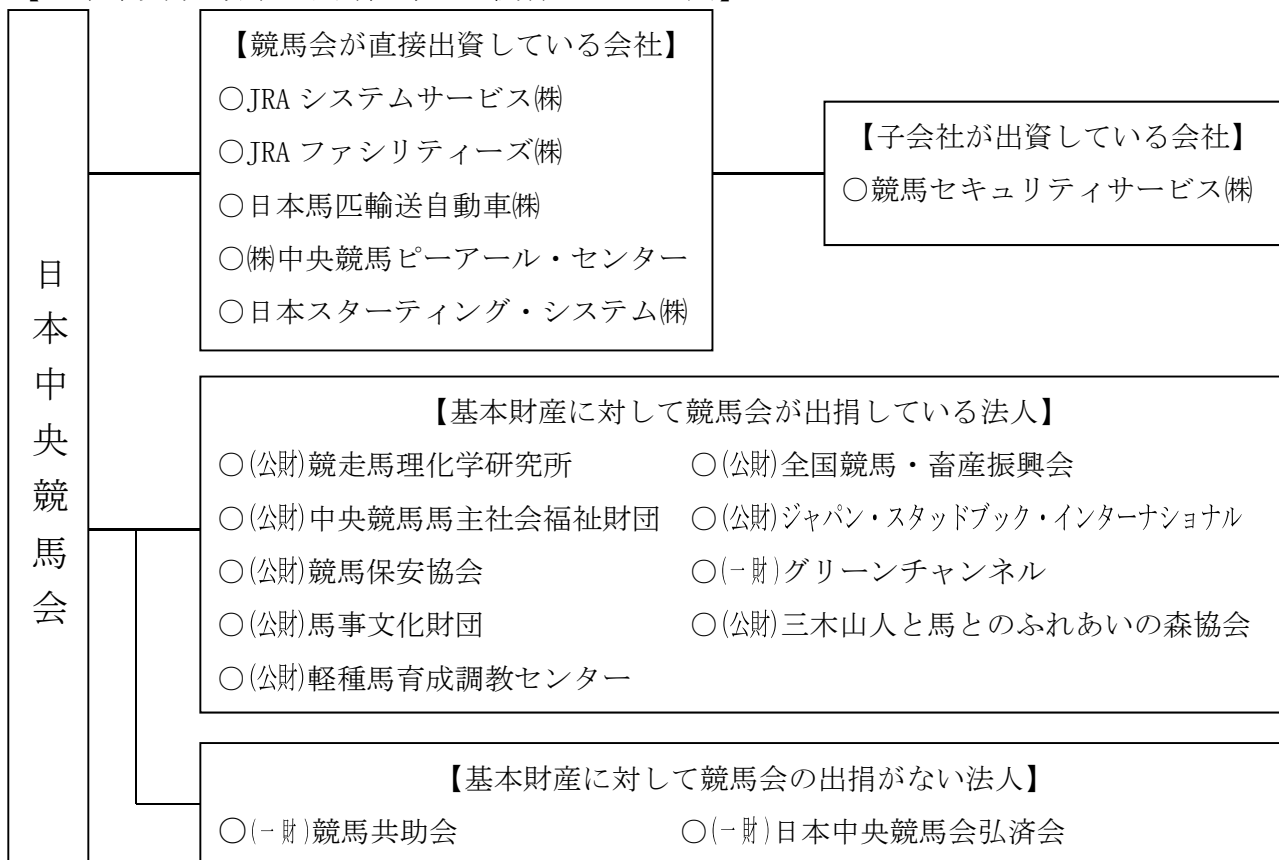
Ⅲ 子会社等に関する事項（令和4事業年度末現在）

1. 子会社等の状況

日本中央競馬会法施行規則（昭和29年農林省令第56号）第10条第3号に定める子会社等の状況は以下のとおりです。

- (1) 子会社：JRAシステムサービス(株)、JRAファシリティーズ(株)、日本馬匹輸送自動車(株)、(株)中央競馬ピーアール・センター、日本スターティング・システム(株)、競馬セキュリティサービス(株)
- (2) 関連会社：なし
- (3) 関連一般社団法人等：(公財)競走馬理化学研究所、(公財)中央競馬馬主社会福祉財団、(公財)競馬保安協会、(公財)馬事文化財団、(公財)軽種馬育成調教センター、(公財)全国競馬・畜産振興会、(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル、(一財)グリーンチャンネル、(公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会、(一財)競馬共助会、(一財)日本中央競馬会弘済会

【日本中央競馬会と子会社等との関係を示した図】



2. 子会社の名称、住所、資本金、事業内容、役員数、代表者の氏名、従業員数、日本中央競馬会の所有する議決権の議決権の総数に対する割合及び日本中央競馬会との関係

子会社の名称・住所 代表者の氏名 資本金 競馬会の議決権所有割合	主な事業内容	売上高 当期純利益 利益剰余金 〔令和3年〕 決算額 (百万円)	役員数 (うち常勤) 従業員数 (人)	競馬会との関係 ア 売上高中の競馬会との取引額 (令和3年実績) イ 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
JRAシステムサービス㈱ 【平成19年10月設立】 東京都江東区永代1-14-5 代表取締役社長 中村 嘉宏 500,000千円 54.5% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	<ul style="list-style-type: none"> トータリゼータシステム及び各種情報処理システム並びにそれらのシステムに関連する機器の運用及び保守整備 競馬に関する情報の提供 各種機器・車両及び競馬用諸設備の売買及び賃貸借並びにそれらに付帯する物品の売買及び賃貸借 	18,646 164 6,883	14 (11) 539	ア 15,280百万円 イ ・トータリゼータシステム等の運用保守管理業務 ・トータリゼータシステム等のソフトウェア開発業務 ・競馬に関する情報提供システムの運用業務 ウ なし
JRAファシリティーズ㈱ 【平成19年10月設立】 東京都中央区八丁堀3-19-9 代表取締役社長 木所 康夫 300,000千円 94.9% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	<ul style="list-style-type: none"> 建物、馬場、造園及び各種設備の保守管理並びに関連資材の販売 施設等の清掃、環境衛生、防疫、廃棄物の管理及び警備 出走馬一覧表等各種刊行物の作製及び版下作成 飼糧、敷料及び添加物等の輸入並びに販売 損害保険代理業及び生命保険の募集等 	22,267 420 11,484	14 (11) 487	ア 17,356百万円 イ ・競馬場等の建物、設備、馬場等の保守管理業務 ・競馬場等の清掃管理業務及び清掃業務 ・レーシングプログラムの作製 ・建物、設備、馬場等の設計管理業務 ウ なし
日本馬匹輸送自動車㈱ 【昭和22年8月設立】 東京都港区新橋6-20-11 代表取締役社長 谷崎 潤 36,000千円 100%	<ul style="list-style-type: none"> 競走馬の輸送 	2,201 130 1,602	5 (3) 93	ア 2,083百万円 イ ・競走馬輸送業務 ウ なし
㈱中央競馬ピーアール・センター 【昭和53年10月設立】 東京都港区新橋4-5-4 代表取締役社長 福井 紳弥 20,000千円 64.3% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	<ul style="list-style-type: none"> 競馬及び馬文化等に関する図書及び印刷物の企画、編集、制作、出版及び販売 競馬及び馬文化等に関する映像業務、音声業務並びにその機器の運用、開発、販売、賃貸及び保守整備 競馬及び馬文化等に関する各種情報の収集及び提供 	5,700 70 2,116	7 (5) 108	ア 2,955百万円 イ ・映像伝送ネットワークシステム運用保守管理業務 ・競馬実況中継放送代理業務 ウ なし
日本スターティング・システム㈱ 【昭和40年9月設立】 東京都港区新橋6-14-3 代表取締役社長 横田 貞夫 10,000千円 100%	<ul style="list-style-type: none"> 発馬機及びその周辺機器等の運用並びに保守整備 発馬機及びその周辺機器の賃貸並びに販売 競走馬の発走に関する補助 	1,693 202 1,305	6 (4) 69	ア 1,655百万円 イ ・発馬機作業及び機材輸送業務 ウ なし
競馬セキュリティサービス㈱ 【平成4年11月設立】 東京都港区西新橋3-2-1 代表取締役社長 小日向 照夫 100,000千円 0% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	<ul style="list-style-type: none"> 総合警備保障業務 労働者派遣業務 	3,445 20 2,338	5 (3) 113	ア 2,878百万円 イ ・競馬場等の常駐警備業務 ・競馬開催に係る警備業務、案内業務及び競馬開催補助業務 ウ なし

3. 関連一般社団法人等の名称、住所、基本財産、事業内容、役員数、代表者の氏名、職員数及び日本中央競馬会との関係

関連一般社団法人等の名称・住所 代表者の氏名 基本財産	主な事業内容	年間収入 (令和3年) 決算額	役員数 (うち常勤) 従業員数	競馬会との関係 ア 年間収入中の競馬会支出額 (令和3年実績) イ 競馬会の業務との関係及び 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
(公財)競走馬理化学研究所 【昭和40年8月設立】 栃木県宇都宮市砥上町321-4 理事長 安齊 了 1,030,050千円	<ul style="list-style-type: none"> 競走馬に施用される薬品及び薬剤の検査及び研究 騎手に施用され、又は騎手が使用する薬品及び薬剤の検査及び研究 馬の親子判定及び個体識別に係る検査及び研究 農畜産物等に使用される薬品及び薬剤等の検査及び研究 	(百万円) 1,738	(人) 6 (3) 61	ア 1,891百万円 イ 「日本中央競馬会競馬施行規約」に定める競走馬に係る薬物検出機関 ・競走馬薬物検査業務 ・薬物検査法の開発に関する委託研究業務 ウ なし
(公財)中央競馬馬主社会福祉財団 【昭和44年10月設立】 東京都港区虎ノ門1-2-10 理事長 畑山 光伸 5,517,067千円	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉を目的とする事業に対する助成 社会福祉事業関係者の研修事業に対する助成 中央競馬関係者の福利厚生の上向のための事業 	630	10 (1) 6	ア なし イ 競馬会が馬主に交付した競馬賞金の一部を使用してその事業を実施 ウ 理事(非常勤) 後藤 正幸(競馬会理事長) 理事(非常勤) 木村 一人(競馬会常務理事)
(公財)競馬保安協会 【昭和46年5月設立】 東京都港区新橋4-5-4 理事長 倉田 潤 10,000千円	<ul style="list-style-type: none"> 競馬の公正確保のために必要な調査並びに情報及び資料の収集 競馬の公正確保のために必要な研究 	1,593	5 (5) 145	ア 1,439百万円 イ 競馬の公正確保に必要な調査等を実施 ウ なし
(公財)馬事文化財団 【昭和51年4月設立】 神奈川県横浜市中区根岸台1-3 理事長 福田 正二 1,851,212千円	<ul style="list-style-type: none"> 馬に関する文献、標本、写真、フィルム等の博物資料(以下「馬事博物資料」)の収集、保管及び展示 馬事博物資料に関する印刷物の編集及び刊行 根岸競馬記念公苑の馬の博物館その他施設の管理運営 	593	6 (2) 24	ア 398百万円 イ 根岸競馬記念公苑「馬の博物館」、東京競馬場「JRA競馬博物館」及び「Gate J.」の管理運営等を実施 ウ なし
(公財)軽種馬育成調教センター 【平成3年3月設立】 北海道浦河郡浦河町字西舎528 理事長 草野 広実 1,000,000千円	<ul style="list-style-type: none"> 軽種馬の育成調教技術の改善・普及 育成調教技術者の養成 共同利用に供する育成調教施設の運営・管理 	824	7 (2) 39	ア 501百万円 イ 日高育成牧場の日高育成総合施設軽種馬育成調教場の管理運営等を実施 ウ なし
(公財)全国競馬・畜産振興会 【平成3年10月設立】 東京都港区新橋4-5-4 会長 小西 敏之 1,000,000千円	<ul style="list-style-type: none"> 競馬の健全な発展を図るための事業に対する助成 畜産の振興に資するための事業等に対する助成 	182	7 (2) 11	ア 134百万円 イ 競馬の健全な発展を図るための事業並びに畜産振興事業等に対する助成等を実施 ウ なし

関連一般社団法人等の名称・住所 代表者の氏名 基本財産	主な事業内容	年間収入 (令和3年 決算額)	役員数 (うち常勤) 職員数	競馬会との関係 ア 年間収入中の競馬会支出額 (令和3年実績) イ 競馬会の業務との関係及び 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
(公財)ジャパン・スタッドブック・ インターナショナル 【平成22年12月設立】 東京都港区新橋4-5-4 理事長 井上 眞 1,040,830千円	<ul style="list-style-type: none"> 海外における競馬に関する情報の収集及び提供並びに我が国の競馬に関する情報の海外への提供 競馬の施行、競走馬の育成に関する海外の競馬関係者との技術の交流 軽種馬の登録及び登録証明書の発行 軽種馬の登録書その他関係図書の刊行 	(百万円) 871	(人) 6 (3) 37	ア 462百万円 イ 競馬会が必要とする海外における競馬に関する情報の収集・提供及び競馬会の行う馬の登録の基礎となる軽種馬の血統登録等を実施 ウ 監事(非常勤) 白田 雅弘(競馬会理事)
(-財)グリーンチャンネル 【平成5年9月設立】 東京都江東区永代1-14-5 理事長 横山 清弘 1,000,000千円	<ul style="list-style-type: none"> 競馬、馬事文化及び農林水産業等に関する放送、供給及び配信業務 競馬、馬事文化及び農林水産業等に関する番組の制作及びその支援 	5,120	8 (4) 24	ア 782百万円 イ 中央競馬等の映像情報に関する番組制作、放送等を実施 ウ なし
(公財)三木山人と馬とのふれあいの 森協会 【平成6年6月設立】 兵庫県三木市別所町高木 三木ホースランドパーク 理事長 伊東 茂治 200,000千円	<ul style="list-style-type: none"> 野外、体験活動等による交流事業の実施 馬事に関する普及啓発 乗馬施設等馬事に関する施設の整備及び維持管理 	445	8 (1) 19	ア 201百万円 イ 兵庫県三木市における乗馬施設等馬事に関する施設の管理運営等を実施 ウ なし
(-財)競馬共助会 【昭和23年9月設立】 東京都府中市日吉町1-1 会長 吉崎 一郎 1,500,000千円	<ul style="list-style-type: none"> 厩舎関係者等に対する福利厚生に関する事業 診療所及び厚生施設の運営 競馬愛好者の利便に資するための施設の管理・運営 	1,904	7 (3) 84	ア 1,034百万円 イ 中央競馬厩舎関係者の福利厚生団体 ウ 理事(非常勤) 白田 雅弘(競馬会理事)
(-財)日本中央競馬会弘済会 【昭和39年12月設立】 東京都港区西新橋1-1-1 会長 峯島 善弘 1,600,000千円	<ul style="list-style-type: none"> 畜産に関する調査研究及び資料の収集 職員の福利厚生に関する事業 	174	8 (2) 5	ア 0百万円 イ 競馬会職員の福利厚生団体 ウ なし

IV 日本中央競馬会が対処すべき課題

1. 閣議決定

(1) 「特殊法人の整理合理化について」(平成7年2月24日閣議決定)

地方競馬との交流競走の拡大を図るとともに、通信衛星による競馬映像情報の提供、地方競馬場における中央競馬の勝馬投票券の発売等を進めることにより、ファンサービスの改善と地方競馬への支援に努める。また、勝馬投票券の発売・払戻の自動化等により勝馬投票業務の効率化に努める。

(2) 「特殊法人等整理合理化計画」(平成13年12月19日閣議決定)

管理経費・競走事業費の削減など更なる事業の効率化を図る。その一環として、公正確保と両立させつつ、一般競争入札等の範囲を大幅に拡大するとともに、関係会社等に対する委託費等を削減する。

(3) 「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)

事業

【助成金交付事業】

- 当事業の透明性向上のためにこれまで講じている外部有識者委員会による助成事業の選定・評価、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律の規定の準用等に加え、助成事業の評価結果を全面的に公表する仕組みを導入する。
- 国の畜産関係補助金との役割分担を明確化する。

【中央競馬関係事業】

- 競争性のある契約のうち競馬の公正・中立性の確保上支障のない契約については、そのすべての契約を、平成22年までのできる限り早い時期に競争入札に移行させる。
- 子会社・関係会社の組織・事業の再編・統廃合を実施する。
- 入札結果・経営内容等の情報開示を一層進める。

【その他】

- 外部監査を導入する。

組 織

- 組織運営について、一層の効率化を図るため、次の措置を講ずる。
 - ・ 競馬の公正・中立性の確保上支障のない範囲において主務大臣の関与・規制の緩和
 - ・ 内部組織として学識経験者等で構成される中立性を有する機関の設置
 - ・ 当該機関による定量的な経営目標の設定及び業績評価の実施
 - ・ 当該経営目標の公表及び当該業績評価の結果の公表
 - ・ 経営不調時における役員解任規定導入

2. 「特殊法人に関する行政評価・監視結果に基づく勧告（日本中央競馬会）」

（平成 14 年 1 月 18 日総務大臣から農林水産大臣へ勧告）

支出の見直しについて

（1）経費の節減等

- ア) 施設整備の抑制
- イ) 施設利用料の適正化
- ウ) 子会社等との契約の見直し
- エ) 窓口業務の自動化に伴う要員縮減の推進
- オ) 競走事業費の支出の抑制

（2）ウインズの新設の抑制と運営の効率化

（3）抽せん馬制度の見直し

3. 「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」の施行に伴う情報公開への適切な対応（平成 14 年 10 月 1 日法律施行）

4. 「ギャンブル等依存症対策基本法」の施行に伴う適切な対応（令和 2 年 10 月 5 日法律施行）

この事業報告書は、日本中央競馬会法施行規則第 10 条の規定に基づき、記載しています。なお、日本中央競馬会の事業年度は、1 月 1 日から 12 月 31 日までとなっています。

J R Aの事業活動について

(令和4事業年度)

－ J R Aは、毎週走り続けます。－

(令和4事業年度事業報告書別冊)

はじめに

令和4事業年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症の感染拡大が社会・経済等に大きな影響を及ぼしましたが、JRAは、同感染症の感染対策を徹底したうえで、「お客様とともに」「夢と感動とともに」「信頼とともに」「社会とともに」「そして未来へ」の5項目で構成する「経営の基本方針」に沿って事業活動を行いました。

こうした中、3月に発生した福島県沖地震の影響により、第1回福島競馬を無観客で実施するとともに、第1回福島競馬及び第1回新潟競馬の開催日割を一部変更しながらも、全国9か所の競馬場において、令和4事業年度の経営目標の基本目標の一つである、「事業運営の根幹となる開催日数288日（36開催）の競馬の着実な実施」を達成することができました。

また、引き続き、電話・インターネット投票会員を中心に多くのお客様に競馬にご参加いただいたことに加え、経済社会活動の正常化が進む中で、開催競馬場におけるお客様の入場制限の緩和等に取り組んだ結果、お客様総数は延べ1億9,994万人余（対前年比110.6%）と前年を上回り、もう一つの基本目標である、「魅力ある競馬開催によるお客様総数の拡大 - 対前年比100%超 - 」についても達成することができました。さらに、勝馬投票券の売得金についても、3兆2,736億円余（対前年比：105.3%）となり、11年連続で前年を上回りました。

JRAは、こうした令和4事業年度の事業活動の結果を的確にフィードバックし、競馬の魅力をもっと向上させるとともに、お客様の獲得と定着化を図るため、競馬番組の充実と質の高い競走の提供をはじめとした様々な施策を実施してまいります。また、「コロナ禍を経て生じた人々の価値観・行動様式の変化」や「SDGs〔Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）〕をはじめとした社会環境の変化」、「馬の福祉の充実」といった中央競馬を取り巻く諸課題にも積極的に取り組んでまいります。

また、JRAさらには競馬産業全体が安定的かつ持続的に発展していくためには、競馬の施行が環境や経済等社会全体に与える影響とJRAを取り巻く環境を意識しつつ、競馬の社会的基盤を強化していくことが必要となります。こうしたことから、今後とも、お客様からも社会からも「信頼される存在」であり続けること、JRA及び競馬産業の事業基盤を強化していくこと、中央競馬事業の運営等に必要な原資を安定的に確保していくことに取り組んでまいります。

<目次>

○ 令和4事業年度事業計画に掲げた項目の実施概況

1. 魅力ある競走の提供 p. 3
2. 競走馬の資質・能力の向上等への取組み p. 4
3. 競馬の公正確保の徹底 p. 6
4. 競馬への参加促進及び販売促進 p. 7
5. ホスピタリティの向上 p. 12
6. 馬事振興 p. 12
7. 持続的な発展に向けた取組み p. 13

○ 令和4事業年度事業計画に掲げた項目の実施概況

1. 魅力ある競走の提供

(1) 開催計画

1月5日（水）から12月28日（水）の間に、延べ288日（36回）の競馬を全国9か所の競馬場において開催しました。

また、より多くのお客様にご参加いただくため、1月10日（祝・月）、3月21日（祝・月）、9月19日（祝・月）及び10月10日（祝・月）に競馬を開催しました。

なお、各競馬場の開催回数及び開催日数は以下のとおりです。

競馬場	札幌	函館	福島	新潟	中山
開催回数	2	1	3	4	5
開催日数	14	12	20	26	42

競馬場	東京	中京	京都	阪神	小倉
開催回数	5	6	0	6	4
開催日数	45	45	0	54	30

(2) 重賞競走の改善

① 葵ステークスのGⅢ格付け

平成30年に重賞競走として新設された葵ステークス（重賞）について、新たにGⅢへの格付けを行いました。

② 開催日割の変更に伴う実施日及び実施場の変更

開催日割の変更に伴い、一部重賞競走の実施日及び実施場を変更しました。

(3) 国内における国際競走への国内外の一流馬の参加促進

エリザベス女王杯に1頭（アイルランド）、ジャパンカップに4頭（フランス3頭及びドイツ1頭）の外国馬が出走しました。

なお、ジャパンカップにおいて、東京競馬場に新設した国際厩舎の運用を開始し、一流の外国調教馬の参加を促進するための体制を整えました。

(4) 国際的な交流の推進

延べ 66 頭の J R A 所属馬がサウジアラビア、アラブ首長国連邦、アメリカ、イギリス、フランス、韓国及び香港の競走に出走し、うち 10 競走で優勝しました。

また、円滑な国際交流を進める基盤整備の一環として、日本調教馬の海外遠征期間の延長等の家畜衛生条件の改正が行われました。

さらに、「2022 年度ロンジンベストホースランキング」において、レーティング 115 以上の 288 頭のうち、日本調教馬は 48 頭が掲載されました。

2. 競走馬の資質・能力の向上等への取組み

(1) 競走馬の育成を通じた取組み

J R A が生産した馬（J R A ホームブレット）26 頭（当歳 8 頭、1 歳 9 頭及び 2 歳 9 頭）及び 1 歳市場で購入した馬 148 頭（令和 3 年購買の 2 歳馬 74 頭及び令和 4 年購買の 1 歳馬 74 頭）を、日高・宮崎の育成牧場において育成しました。

また、育成した競走馬（J R A 育成馬）を売却する J R A ブリーズアップセールを 4 月に会場及びオンラインによるハイブリッド方式で開催し、上場した 2 歳馬 70 頭全馬を売却しました。

(2) 生産育成基盤の強化

強い馬づくりを推進し、競馬の国際交流の進展に対応し得る生産育成基盤の強化を図るため、諸団体が実施する軽種馬生産関連事業への助成等の協力を行いました。

(3) 競走馬の保健衛生対策

競走馬総合研究所等において、スポーツ科学、スポーツ障害、生産育成及び伝染病対応に関する研究を行いました。

また、7 月に「第 50 回生産地における軽種馬の疾病に関するシンポジウム」、11 月に「第 64 回競走馬に関する調査研究発表会」を開催し、それらの研究成果の普及に努めました。

(4) 競走馬の事故防止対策

競走時及び調教時における競走馬の事故（骨折等）の発生状況を随時調査・分析するとともに、「競走馬事故防止対策委員会」による実施計画に基づき、厩舎関係者への

啓発活動や調教施設及び馬場の保全管理等、事故の減少を目的とした各種対策を講じました。

また、事故防止に資する調査研究として、「骨盤骨折の発生状況と予後に関する調査」を実施しました。

(5) 競走馬の暑熱対策

暑熱対策として、競馬場の厩舎への空調設備の新設などの施設整備を行うとともに、夏季において、装鞍所集合時間の変更や下見所の周回時間短縮等の取組みを行いました。

また、競走馬の熱中症予防に資する調査研究を実施し、それらの成果を厩舎関係者に普及しました。

(6) 防疫体制の整備

入厩検疫や定期検査、予防接種、衛生作業等の防疫業務を着実に実施するとともに、海外の伝染病の発生状況等の情報を収集・周知することで、適切な防疫体制の整備を行いました。また、適切な飼養管理法を周知することにより、ワクチン接種率や衛生環境の改善を図り、国内の防疫体制を強化しました。

(7) 競走関連施設の充実

引き続き、美浦トレーニング・センター坂路馬場改造及び南Eコース新設工事（令和5年12月竣工予定）や、栗東トレーニング・センター厩舎改築工事（令和5年6月竣工予定）を実施しました。

また、1月に栗東トレーニング・センター追馬場新設及び周辺施設整備工事（令和5年8月竣工予定）に、7月に美浦トレーニング・センター厩舎改築工事（令和5年6月竣工予定）に着手しました。

(8) 馬主活動の促進

各種媒体での馬主活動のPRや馬主登録ガイドの配布、競馬観戦会の実施等により馬主の新規開拓を進めました。また、新規馬主を対象としたオリエンテーションや永年馬主表彰、GI競走出走馬主等への記念品贈呈等を実施するとともに、馬主向けの情報提供の充実等を図るなど、馬主活動の促進に向けた取組みを行いました。

(9) 厩舎運営の活性化

引き続き、厩舎におけるウォーキングマシン導入の支援を行うなど、厩舎従業員の労働環境の改善や業務の効率化等、厩舎運営の総合的な改善に取り組みました。

(10) 厩舎関係者の養成等

① 騎手及び厩務員の養成

競馬学校の騎手課程において、2月に9名（38期）が卒業し、3月1日付で騎手免許を取得しました。また、厩務員課程において、55名が卒業しました。

また、将来的な少子化を踏まえ、早期からの人材育成を図るため、「JRAジュニアユース」を設立しました。

② 若手騎手の育成

新規騎手免許取得者や見習騎手に対して、技術及び知識の習得・向上を図るため、各種研修等を実施しました。また、JRA及び地方競馬所属の見習騎手による「ヤングジョッキーズシリーズ」を実施しました。

③ 競馬に携わる職業への興味喚起と希望者の拡大

各事業所におけるスポーツ少年団の活動等を通じて、競馬に携わる職業への興味喚起と希望者の拡大を図りました。

④ 厩舎関係者への研修等

厩舎関係者に対して、コンプライアンス研修や暑熱対策の講習会、競走馬総合研究所によるスポーツ科学セミナー等を実施しました。

3. 競馬の公正確保の徹底

(1) 登録・免許業務及び制裁等の厳正な実施

馬主・競走馬・服色の登録及び調教師・騎手に対する免許業務について、法令に従い、公正審査委員の意見を聴いたうえで、厳正に実施しました。

また、競走に関する騎手への制裁として、騎乗停止22件、過怠金460件、戒告465件の制裁を行いました。

(2) 競馬に対する信頼の確保に向けた取組み

① 薬物の不正使用事案等の未然防止

薬物の使用について、厩舎関係者への指導・研修を実施するとともに、禁止薬物

等の飼料への混入防止のため、販売業者への講習会や薬物検査の受検状況の把握、配合飼料製造工場の査察を行いました。

また、薬物の取締りに関する各種規程の整備を行いました。

② 反社会的勢力排除への取組み

関係機関と連携し、お客様の安全確保及び競馬場・ウインズ等内外の秩序維持に努めました。

③ 自主警備体制の整備

厩舎エリアへの防犯カメラの設置を進めるとともに、通門管理や巡回等を徹底することにより、お客様エリア等の施設内における安全確保や違法行為の防止に努めました。

(3) 審判関係業務の改善等

裁決事項に関し、海外競馬主要国や地方競馬全国協会との意見交換を適宜実施しました。

また、JRAホームページで裁決レポート及びパトロールビデオを公開しました。

4. 競馬への参加促進及び販売促進

(1) プロモーションの展開

① 広告プロモーションの展開

競馬の持つドラマやレースの迫力等の表現を通じ、競馬ファンを中心とした幅広い層に「競馬の本質的な魅力」をアピールするため、「HERO IS COMING.」をキャッチフレーズとした新たな年間プロモーションを展開しました。

また、主に現役顧客層及び競馬休止層をターゲットとして、競馬そのものの魅力を訴求するテレビCM「あしたのために、競馬はある。」を放映しました。

② G I 競走等のプロモーション

日本ダービー・有馬記念を中心に、テレビ、新聞・雑誌、WEB等各種メディアを通じてG I 競走の開催告知を行いました。

③ 海外競馬のプロモーション

JRAで勝馬投票券を発売する海外競馬について、出走馬データや遠征馬の近況等の情報をお客様へ迅速に提供するとともに、グリーンチャンネル（ノースクランブル放送）及びラジオNIKKEIにおいて、全ての発売対象レースを放送しまし

た。また、ドバイワールドカップと凱旋門賞については、地上波での中継を実施しました。

また、お客様の注目度の高いドバイ諸競走、凱旋門賞、香港国際競走については、新聞及びWEBでのプロモーションを展開しました。

④ その他WEBサイトの展開

初心者から競馬ファンまで楽しめるJRAの公式競馬エンターテインメントサイト「JRA FUN」を新たに開設し、様々なコンテンツを展開するとともに、「JRA公式Facebook」や「JRA公式Instagram」等のSNSを活用し、中央競馬の話題の拡散を行いました。

また、引き続き「UMAJOサイト」を運用したほか、GI競走を中心に、競馬の楽しみ方を知っていただくためのオンライン形式のセミナーを実施しました。

(2) 広報活動の展開

① 競馬中継の安定的な提供

祝日や平日の競馬開催日も含めてテレビ・ラジオによる競馬中継の放送枠を安定的に確保しました。

② パブリシティ活動の充実

JRAの認知度向上や競馬に関する話題作りを図るため、年間を通じてミニ番組の提供を行いました。また、春秋のGIシーズンの盛り上げを図るため、バラエティ番組・スポーツ番組及び情報番組におけるパブリシティやミニ番組の放送等を行いました。

(3) 競馬場・ウインズ等の活性化

開催競馬場において、1月から入場券のネット予約を新たに開始するとともに、5月から入場券の当日現金発売を段階的に再開しました。また、入場者数を踏まえた指定席料金や入場料の設定を行いました。さらに、「UMAJO SPOT」の運用を再開したほか、「Welcomeチャンス」をはじめとした各種イベントを実施しました。

また、ウインズ錦糸町・エクセル伊勢佐木・ウインズ新横浜・ウインズ浅草において、有料席のネット予約販売を開始しました。

(4) 勝馬投票の利便性の向上

UMACCA投票について、投票機の操作性向上等のためのシステム改修を行いました。なお、UMACCA投票会員に新たに18,250名のお客様にご登録いただき、令和4年末までに会員数は209,163名となりました。また、令和5年4月より「JRA-UMACCAポイントサービス」を新たに開始することに伴い、登録促進キャンペーンを実施しました。

また、「スマッピー投票」について、全ての競馬場及びウインズにスマッピー専用フロアや専用窓口を設置するとともに、引き続き利用促進キャンペーンを実施するなど、更なる普及と利用拡大を図りました。

(5) 払戻金施策

① 払戻金の上乗せ

特定日の指定した競走・投票法において、通常の払戻金に売得金5%相当額を上乗せする「JRAプレミアム」について、ワイドを対象とした「金杯ワイド」、「春の3歳重賞+リステッドワイド」、「ダービーデーワイド」、「有馬記念デーワイド」、単勝を対象とした「夏の2歳単勝」、「秋の2歳単勝」、単勝及びワイドを対象とした「ホープフルデー単勝&ワイド」を実施し、計737競走において3,216,225,820円の上乗せを行いました。

また、すべての競走・投票法において、通常の払戻金が100円元返しとなる場合に、売得金の範囲内で、払戻金に10円を上乗せする「JRAプラス10」について、計642件で3,478,073,900円の上乗せを行いました。

② 払戻率の設定

9月19日（祝・月）（JRAアニバーサリー当日）及び12月28日（水）（ホープフルステークス当日）の全ての競走、全ての投票法を対象に、払戻率を80%に設定する「JRAスーパープレミアム」を実施しました。

(6) 電話・インターネット投票会員の加入促進及び会員向けサービスの充実

① 電話・インターネット投票会員の加入促進

日本ダービー及び有馬記念において、「即PAT新規加入キャンペーン」を実施しました。なお、電話・インターネット投票会員に新たに859,508名のお客様にご登録いただき、令和4年中央競馬終了時点で会員数は5,970,593名（対前年比358,506名増）となりました。

② サポート体制の充実

電話・インターネット投票に関する様々な問合せに迅速かつ的確にお答えするため、PATサービスセンターにおいて、「FAQシステム」機能のさらなる充実を図るとともに、ホームページにFAQを掲載する等の対応を行いました。

③ 電話・インターネット投票会員向けサービスの充実

「Club JRA-Net」のコンテンツの充実を図るとともに、年間を通じて会員向けの各種キャンペーンを実施し、令和4年末までにClub JRA-Netの会員数は約242万人（前年比106.7%）となりました。

④ 電話・インターネット投票の利便性の向上

JRAダイレクトについて、お客様にご利用いただけるカード会社を3社（クレディセゾン、三井住友トラストクラブ（ダイナースクラブ）、ジャックス）追加しました。

(7) JRAアニバーサリーの実施

日頃から中央競馬をご愛顧いただいているお客様に感謝の意を表するとともに、JRAのこれまでの歴史を振り返る日として、9月19日（祝・月）を「JRAアニバーサリー」と題し、当日の全競走・全投票法の払戻率を全て80%に設定する「JRAスーパープレミアム」やWEBを活用したイベント等を実施しました。

(8) 販売ネットワークの拡充

ウインズ浦和並びにJ-PLACE船橋、呉及び宇部において発売日数を、J-PLACE鳥栖及び荒尾において発売レース数を拡大しました。

(9) お客様への情報提供の充実

① レース映像の充実

GI競走当日を中心に、引き続き車載カメラやヴァーチャルカメラ、スーパースローカメラ等の特殊カメラを増設し、レース映像を制作・放映しました。

また、競馬場やウインズ等の館内モニターについて、全ての競馬場・ウインズ等においてより大きな画面サイズの高精細モニターへの更新が完了しました。

さらに、令和5年4月より、レース中継映像に各馬の位置関係をグラフィック表示すること等が可能となる競走馬トラッキングシステムを新たに導入することに伴い、開催競馬場において実証実験を行いました。

② J R Aホームページの充実

スマートフォンによる閲覧に適し、情報も充実した出馬表ページや、様々な特設サイトなどの新たなコンテンツを提供するとともに、海外馬券発売時には特設ページを開設し、出走馬やレース等に関する情報の提供を行いました。

また、令和5年3月より、J R Aホームページにおける「レースライブ配信」を開始することとしました。

(10) お客様関連施設の充実

① 京都競馬場整備工事

令和2年11月に着工した京都競馬場整備工事については、引き続き「グランドスワン」の改築をはじめ、馬場の路盤更新や厩舎の改築等の工事を行いました。(新スタンドについては、令和5年2月竣工予定)

② 阪神競馬場スタンドリフレッシュ工事

令和2年12月に着工した阪神競馬場スタンドリフレッシュ工事を行いました。(令和6年11月竣工予定)

③ 宮崎育成牧場諸施設整備工事

令和4年2月に着工した宮崎育成牧場諸施設整備工事については、ウインズ等の改築や公園地区の整備、駐車場の拡充等の工事を行いました。(令和5年9月竣工予定)

④ 各種映像装置の更新

ターフビジョンの更新工事について、東京競馬場は9月、小倉競馬場は12月に竣工しました。また、パドックに設置されている屋外表示装置の更新工事について、函館競馬場は4月、福島競馬場は12月に竣工しました。

⑤ 映像提供施設「V I E S T A (ヴィエスタ)」の設置

勝馬投票券の発売を伴わない映像提供施設「V I E S T A (ヴィエスタ)」を、11月に宮城県仙台市に設置しました。

5. ホスピタリティの向上

(1) 接客体制の充実

① 接客対応の改善

オンラインを活用してスタッフの研修を実施するとともに、各種教材等の研修ツールの整備を進める等、接客対応の改善を図りました。

② インフォメーション機能の充実等

開催競馬場において「ビギナーズカウンター」の設置及び「ビギナーズセミナー」の実施を、5月以降順次再開しました。

(2) 観戦環境等の向上

検温や手指の消毒、施設内の換気をはじめとした新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底しました。

また、統一基準に基づく館内サインの改善に取り組みました。

さらに、受動喫煙防止や喫煙所における感染対策のための取組みや、観戦マナー向上のためのターフビジョンやレーシングプログラム、ポスター等による啓発活動、場内装飾による環境美化等を実施しました。

6. 馬事振興

(1) 乗馬の普及

各事業所において、スポーツ少年団や学生を対象とする乗馬指導を実施しました。また、競馬開催時における体験乗馬や馬車試乗会等の馬事イベントを順次再開しました。

(2) 引退競走馬のセカンドキャリアの促進支援

11月に三木ホースランドパークにおいて、引退競走馬と内国産乗用馬を対象とした「ジャパンプリーディングホースショー」を開催するとともに、JRA馬事公苑（宇都宮）等で引退競走馬をより円滑に乗用馬等へ転用するための調教（リトレーニング）技術の研究・検証に取り組みました。

また、競馬サークル関係者による「引退競走馬に関する検討委員会」を4回開催し、引退競走馬のセカンドキャリア促進を中心とした諸課題への検討を進めるとともに、障がい者乗馬やホースセラピー活動、大学・高校馬術部の支援等に取り組みました。

さらに、「馬術」や「引退競走馬のセカンドキャリア」をテーマとした特設サイト「HUMAN with HORSES」を開設しました。

加えて、引退競走馬の養老等に取り組む団体等への支援を行うなど、馬の福祉の充実に努めました。

(3) 馬術の振興

各種馬術大会の開催を支援するとともに、馬術の振興に関連する諸団体が行う事業に対して助成等の協力を行いました。

また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の記録をまとめた映像コンテンツ「世界の馬術がやってきた」をグリーンチャンネルやYouTubeで発信したほか、馬や馬術競技の魅力発信プロモーションイベント「馬れるミュージアム2022」を実施しました。

(4) 馬事文化の発展への寄与

「馬の博物館」及び「競馬博物館」において、特別展やテーマ展等を実施しました。また、馬事文化賞に、「木曾馬と生きる 風わたる里 開田高原」（制作：a b n長野朝日放送社）を、馬事文化賞特別賞に「幸せな人間が幸せな馬をつくる 調教師 藤澤和雄 最後の400日」（制作・著作：NHK及びエキスプレススポーツ、制作：NHKグローバルメディアサービス）を選出しました。

(5) JRA馬事公苑の整備

JRA馬事公苑について、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の実施する大会仮設施設の撤去解体工事が2月に完了し、続けて、今後の日本の馬事振興の拠点に相応しい施設とするための整備工事を行いました。（令和5年10月竣工予定）

7. 持続的な発展に向けた取り組み

(1) 社会貢献活動

① 地域社会との連携・協調

各事業所において、防災計画やマニュアルの整備を行うとともに、大規模災害の発生に備え、防災備蓄品の配備・管理を適切に行いました。

また、一部事業所において、地域のイベントへの馬の派遣や、地域住民を対象とした催し物の実施を再開しました。

② 事業所周辺の整備に関する取組み

競馬開催日に、競馬場やウインズ周辺地域において、警備ポストを配置する等の交通対策を実施しました。また、競馬場・ウインズ等が所在する41の自治体に対して、総額53.8億円の環境整備事業費を交付し、事業所周辺の環境整備事業を実施しました。

③ 畜産振興への支援（畜産振興事業）

畜産分野に係る喫緊の対応が必要な事業や安全・安心な畜産物の供給に関わる事業、馬の防疫体制の整備、激甚災害の被災地に対する事業支援等、畜産の振興に資するための事業に関し、特別振興資金を活用して交付金を交付しました。（別表10）

④ 被災地への支援

3月に発生した福島県沖地震の被災地（福島県・福島市）への支援を行いました。（総額200万円）

⑤ 新型コロナウイルス感染症対策への支援

医療関係機関や社会福祉事業等が実施する新型コロナウイルス感染症対策への支援を行いました。（総額36億4,000万円）

(2) 環境への取組み

① 資源循環型社会の構築への貢献

競馬事業に伴い発生する排出物の総量は年間47,234t（対前年比96.2%）となりました。また、競馬開催に伴う排出物や事務エリアで発生する排出物のリサイクル率は84.3%（対前年比4.7ポイント減）となりました。

② 地球温暖化防止

LED照明器具等の省エネ機器の導入や、太陽光発電システム・バイオマス燃焼発電システムの運用により、事業活動に伴う温室効果ガス排出量の抑制に努め、CO₂総排出量は年間87,721t-CO₂/年（対前年比112.1%）となりました。

③ 地域社会との調和

競馬開催日に、競馬場やウインズ等において事業所周辺清掃や周辺道路の混雑緩和対策を実施しました。

④ 環境マネジメントの推進

「環境委員会」を中心に、環境への取組みを着実に推進する体制を構築し、環境

関連法令の順守、廃棄物の適正処理等の環境コミュニケーションを適切に実施しました。また、6月5日（日）〔安田記念（G I）当日〕に、東京競馬場において、競馬開催日における電力を再生可能エネルギー由来の電力のみで賄う「クリーンエネルギー競馬」を実施しました。

(3) 組織の運営等に関する取組み

① 法令順守と透明性の確保

i) コンプライアンスに関すること

役職員に対する研修等を通じて「コンプライアンス行動指針」の周知徹底に努めるとともに、コンプライアンス監査等を実施し、コンプライアンス体制の確認・点検及びコンプライアンス意識の向上を図りました。

ii) 個人情報、法人文書等の管理に関すること

「個人情報の保護に関する法律」「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」「公文書等の管理に関する法律」の規定に基づき、J R Aの保有する個人情報、法人文書等を適切に管理しました。また、各種研修・会議において啓発活動を実施するとともに、コンプライアンス監査等を通じ管理体制を強化しました。

iii) 情報公開に関すること

「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」等の規定に基づき、J R Aの保有する法人文書の開示請求 44 件について、適切かつ迅速に対応しました。また、J R Aホームページ等を活用し、J R Aの経営に関する情報等を公開しました。

iv) 契約・入札等に関すること

「入札監視委員会」を4回開催し、契約・入札の更なる適正化に向けた点検を行いました。また、入札公告等契約に関する情報をJ R Aホームページで公開しました。

② 危機管理体制の強化

大規模自然災害等の不測の事態が発生しても事業が継続できるよう、事業継続計画の点検・確認を行いました。

また、厩舎関係者や役職員等、競馬サークル全体における新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底しました。

③ 情報セキュリティの確保

「情報セキュリティ委員会」で定めた「対策推進計画」に基づき、情報セキュリティに関する教育、情報セキュリティに関する自己点検及びプログラム開発における品質向上に向けた取組みを行いました。また、外部機関による情報セキュリティ点検を行うとともに、役職員に対するeラーニング研修や標的型攻撃メール訓練等を実施しました。

④ コンピューターシステムの更新及び全体最適化

トータルゼータシステムをはじめとした各種システムについて、更新及び機能改善・強化を実施しました。また、一層のコンピューターシステムの全体最適化を推進するため、将来的な更新計画の策定に向けて調査研究等を実施しました。

⑤ 国際協調及び国際協力の充実

国際競馬統括機関連盟（IFHA）の副会長国として、また、アジア競馬連盟（ARF）の副会長国として、種々の世界規模の課題について有効な方策の検討や各国・地域間の意見調整を行い、外国競馬統括機関との国際協調の維持及び日本競馬の国際的地位の向上に努めました。

また、アメリカ、カナダ、イギリス、アイルランド、ドイツ、アルゼンチン、ブラジル、ニュージーランド、オーストラリア、韓国、香港及びサウジアラビアとの交換競走を実施しました。さらに、アジアウィーク（マレーシア、シンガポール、タイ、インド、フィリピン及びマカオとの交換競走）を7月に小倉競馬場において実施しました。

⑥ 次世代育成

馬に関する講義や馬とのふれあいを行う出張授業を小学校16校において実施するとともに、キッザニア甲子園に引き続き「ホースパーク」パビリオンを出展しました。また、「ジョッキーベイビーズ」については、地区予選を全国7か所で実施し、勝ち抜いた8名の代表者による決勝大会を、10月9日（日）に東京競馬場において実施しました。

また、北海道大学・中央大学・法政大学・麻布大学において学生向けに競馬に関する講義を行ったほか、獣医学生を対象とする実習インターンシップや競走馬の獣医師を目指す学生に対する奨学金事業を実施しました。

⑦ ギャンブル等依存症対策

「ギャンブル等依存症対策委員会」で定めた「ギャンブル等依存症対策実施計画」に基づき、5月のギャンブル等依存症問題啓発週間におけるお客様への注意喚起や

競馬場・ウインズ等への入場制限、電話・インターネット投票の利用停止や購入上限額の設定等の対策を引き続き実施しました。

⑧ 勝馬投票に関わる違法行為等の防止

i) ノミ行為、違法インターネット賭事、悪質な競馬情報提供会社による被害等の防止

ノミ行為やインターネット賭事等の違法行為や、悪質な競馬情報提供会社について、JRAホームページやレーシングプログラム等の各種媒体を通じてお客様への注意喚起を行いました。

ii) 20歳未満の者の勝馬投票券購入防止

20歳未満の者が勝馬投票券を購入することのないよう、レーシングプログラムやポスター等で周知を図るとともに、必要に応じてウインズへの入場時や、勝馬投票権購入時の年齢確認を実施する等の対策を講じました。

⑨ 中央競馬への信頼の確保に向けた取組み

厩舎関係者の持続化給付金不適切受給事案を踏まえ、厩舎関係者に対するWEBによるコンプライアンス研修を実施するとともに、内部通報専用のホットラインを開設するなど、再発防止を図りました。

⑩ その他の取組み

i) 効率的・安定的な事業運営

労働生産性の維持・向上及びワークライフバランスの実現を目的として、10月から「スライド勤務制度」及び「在宅勤務制度」の試行運用を行いました。

また、将来にわたり安定的に事業運営を行うため、「サステナビリティ推進部」の新設をはじめとした組織の一部見直しを行いました。

ii) 人材育成の充実

JRA職員について、個々の更なる能力向上や組織の活性化のため「階層別研修」や「専門研修」、「一般研修」を実施しました。また、関連団体職員について、JRAについての知識と理解を深めるための研修を実施しました。

iii) 経営資源の有効活用

インターネット投票システムを活用した地方競馬の受託発売を延べ237日実施し、発売金は約1,626億円となりました。

また、ジャパンカップにおいてロンジン社とパートナーシップを結びました。

iv) 社会貢献活動や環境への取組み等に関する発信

ブランドCM「あしたのために、競馬はある。～社会活動篇～」を放映したほか、JRAホームページや各種メディアを通じてJRAの社会貢献活動や環境への取組みについて発信しました。

<別表目次>

○ 別表 1	令和 4 事業年度の各種実績	p. 20
○ 別表 2	開催競馬場別開催実績・競走成績	p. 21
○ 別表 3	開催回数の推移	p. 22
○ 別表 4	開催日数及び競走回数の推移	p. 22
○ 別表 5	出走頭数の推移	p. 22
○ 別表 6	中央競馬のお客様総数及び開催競馬場入場人員の推移	p. 23
○ 別表 7	売得金の推移	p. 23
○ 別表 8	電話・インターネット投票会員数の推移	p. 24
○ 別表 9	馬主・調教師・騎手・調教助手・厩務員数の推移	p. 24
○ 別表 10	特別振興事業について	p. 25
○ 別表 11	J R A 賞 受賞馬及び受賞者	p. 33

【別表 1】

◎令和 4 事業年度の各種実績

①開催回数・開催日数	36 回・288 日
②競走回数	3,456 競走 (前年実績 3,456 競走)
③出走延頭数	47,054 頭 (前年実績 47,660 頭)
④勝馬投票券の売得金	3 兆 2,736 億 8,192 万 8,500 円 (対前年比 105.3%)
⑤開催競馬場の入場人員	279 万 0,937 人 (対前年 386.2%) ※
⑥お客様総数	1 億 9,994 万 7,473 人 (対前年比 110.6%)

※うち女性入場人員は 55 万 4,595 人 (対前年比 430.6%)。全体比 19.9%。

[売得金]

		対前年比	構成比(前年) ※
中央競馬売得金 (内訳)	3 兆 2,539 億 0,707 万 6,200 円	105.3%	-
開催競馬場	586 億 5,216 万 4,400 円	298.8%	1.8%(0.6%)
パークウインズ	520 億 7,050 万 8,100 円	230.9%	1.6%(0.7%)
ウインズ	3,053 億 9,173 万 3,100 円	189.0%	9.4%(5.2%)
J - P L A C E	604 億 5,723 万 1,500 円	167.6%	1.9%(1.2%)
電話・インターネット投票	2 兆 7,773 億 3,543 万 9,100 円	97.4%	85.4%(92.2%)
海外競馬売得金	197 億 7,485 万 2,300 円	117.4%	-
売得金 (中央競馬+海外競馬)	3 兆 2,736 億 8,192 万 8,500 円	105.3%	-

※構成比については、端数処理をしているため、合計が 100%とならない場合があります。

[お客様総数]

		対前年比	構成比(前年) ※
中央競馬お客様総数 (内訳)	1 億 9,680 万 2,493 人	110.5%	-
開催競馬場	279 万 0,937 人	386.2%	1.4%(0.4%)
パークウインズ	252 万 6,000 人	180.2%	1.3%(0.8%)
ウインズ	1,988 万 9,932 人	164.5%	10.1%(6.8%)
J - P L A C E	498 万 5,900 人	144.3%	2.5%(1.9%)
電話・インターネット投票	1 億 6,660 万 9,724 人	103.8%	84.7%(90.1%)
海外競馬参加人員	314 万 4,980 人	118.4%	-
お客様総数 (中央競馬+海外競馬)	1 億 9,994 万 7,473 人	110.6%	-

※構成比については、端数処理をしているため、合計が 100%とならない場合があります。

【別表2】

1. 開催競馬場別開催実績

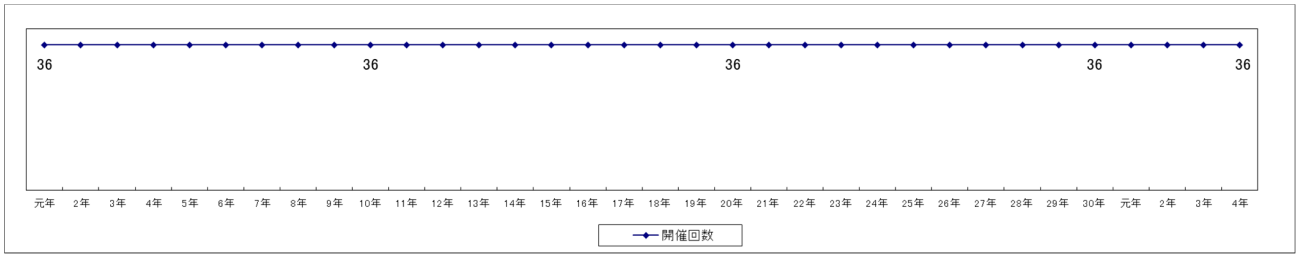
競馬場	開催回数	開催日数	競走数	出走延頭数	入場人員	売得金
札幌	2回	14日	168競走	2,134頭	147,708人	122,470,590,200円
函館	1	12	144	1,759	62,468	87,678,699,600
福島	3	20	240	3,401	120,595	145,334,647,200
新潟	4	26	312	4,457	223,485	215,924,599,500
中山	5	42	504	7,243	436,995	613,513,758,300
東京	5	45	540	7,582	906,267	676,875,084,700
中京	6	45	540	7,143	243,939	463,233,321,100
京都	0	0	0	0	0	0
阪神	6	54	648	8,448	489,268	710,334,491,800
小倉	4	30	360	4,887	160,212	218,541,883,800
計	36	288	3,456	47,054	2,790,937	3,253,907,076,200

2. 競走成績

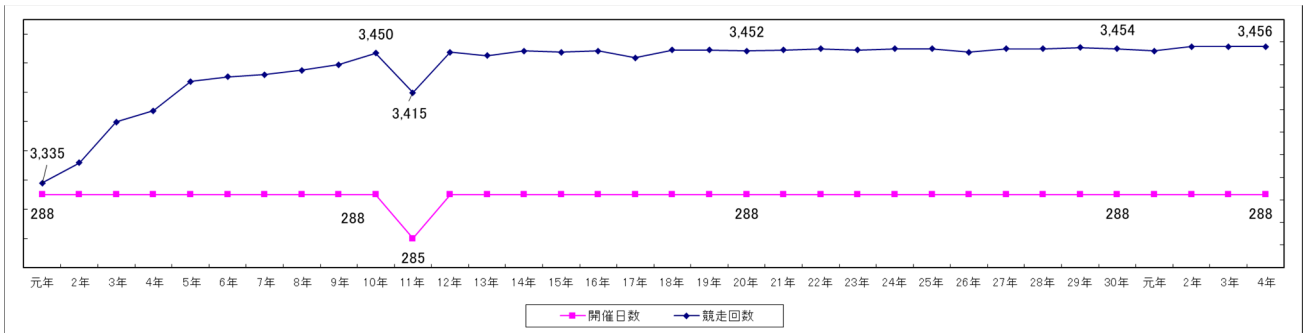
種別	競走回数				出走延頭数	出走実頭数	1競走平均 出走頭数
	一般競走	特別競走	重賞競走	合計			
2歳	596回	40回	14回	650回	8,215頭	3,294頭	12.6頭
3歳以上	1,821	745	115	2,681	37,434	8,013	14.0
障害	107	8	10	125	1,405	447	11.2
合計	2,524	793	139	3,456	47,054	11,539	13.6

※ 平地競走と障害競走の両方に出走した馬の数は、215頭

【別表3】開催回数の推移（平成元年以降）

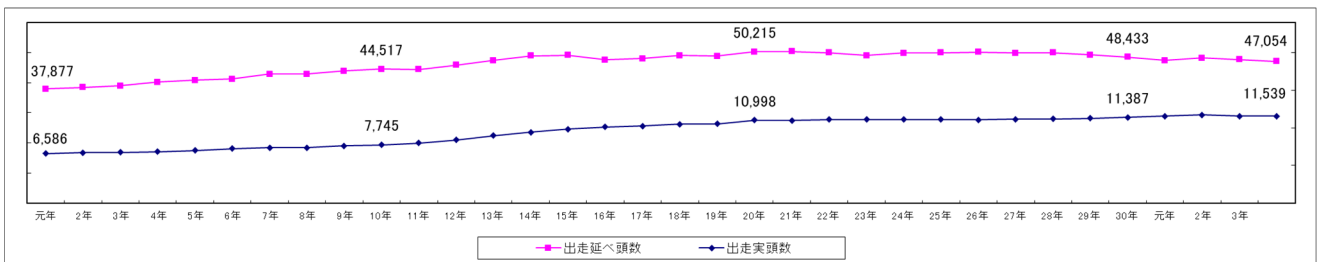


【別表4】開催日数及び競走回数の推移（平成元年以降）

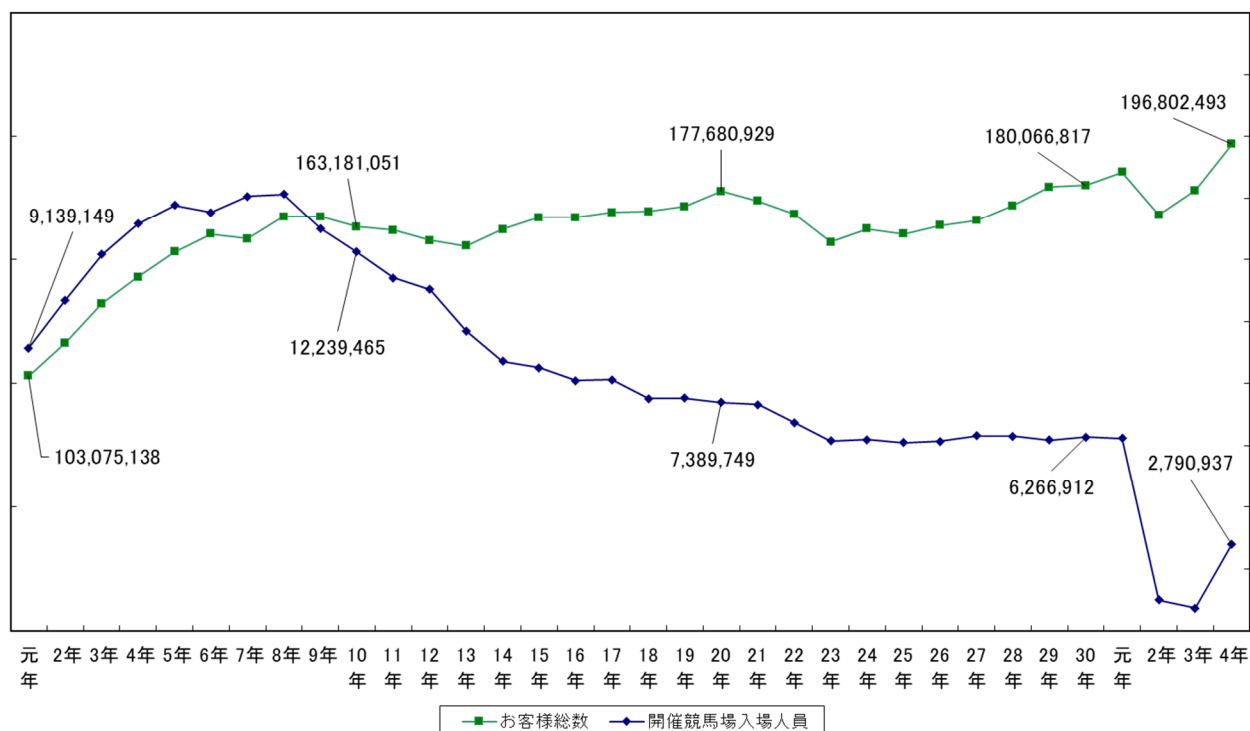


注) 平成11年：厩務員春闘の影響により3回中山第3日、2回阪神第3日、2回中京第3日を取止め

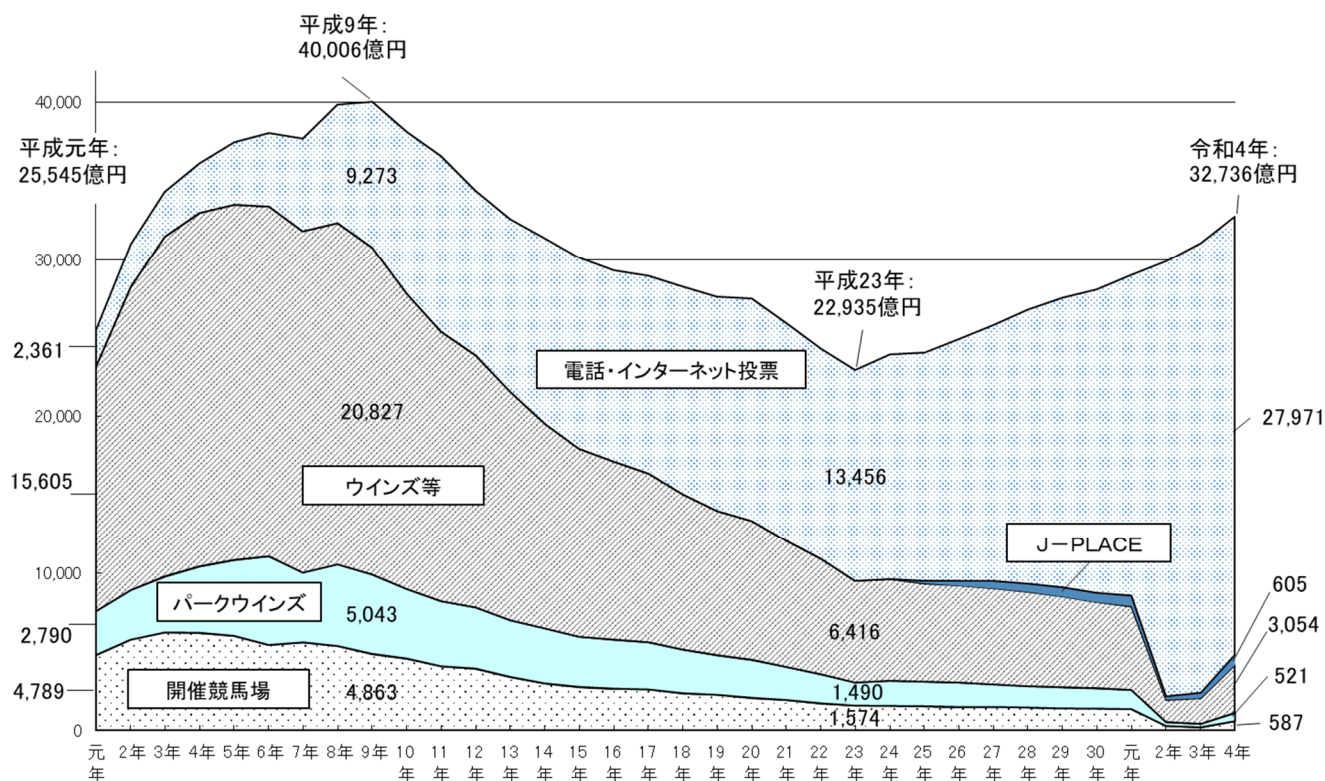
【別表5】出走頭数の推移（平成元年以降）



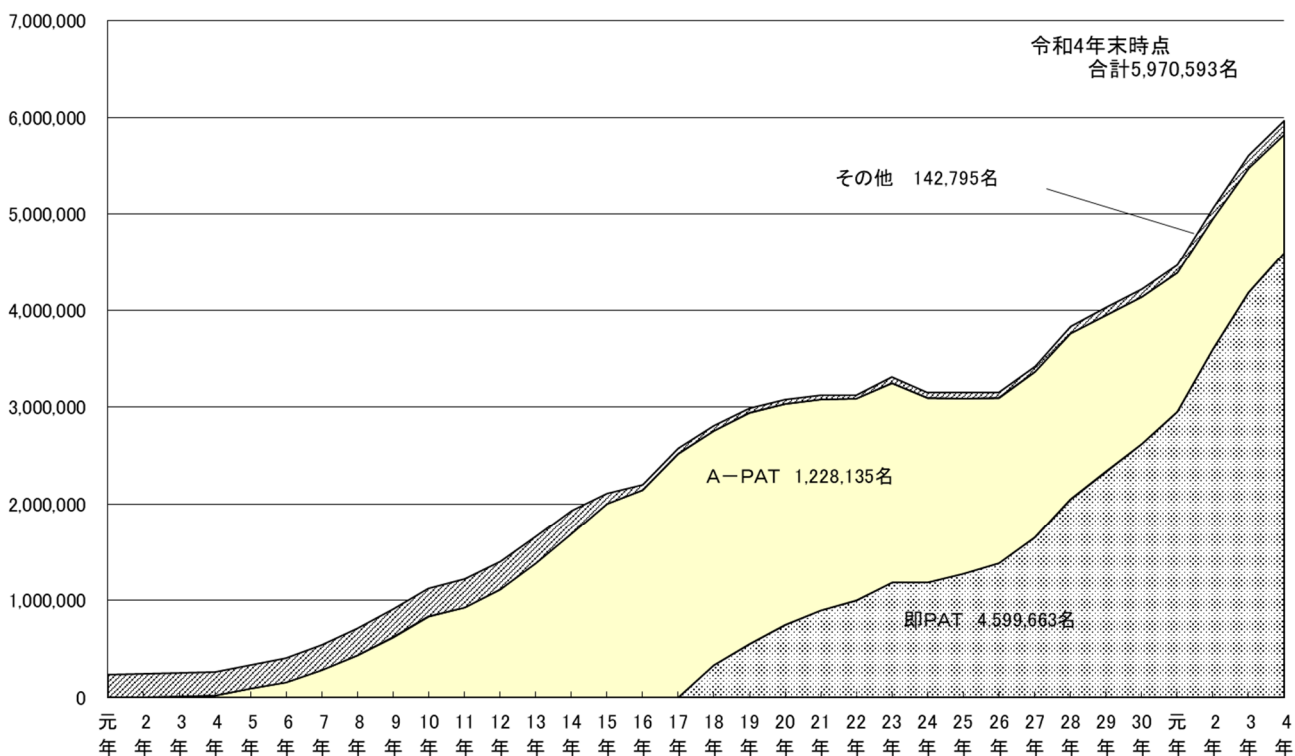
【別表6】 中央競馬のお客様総数及び開催競馬場入場人員の推移



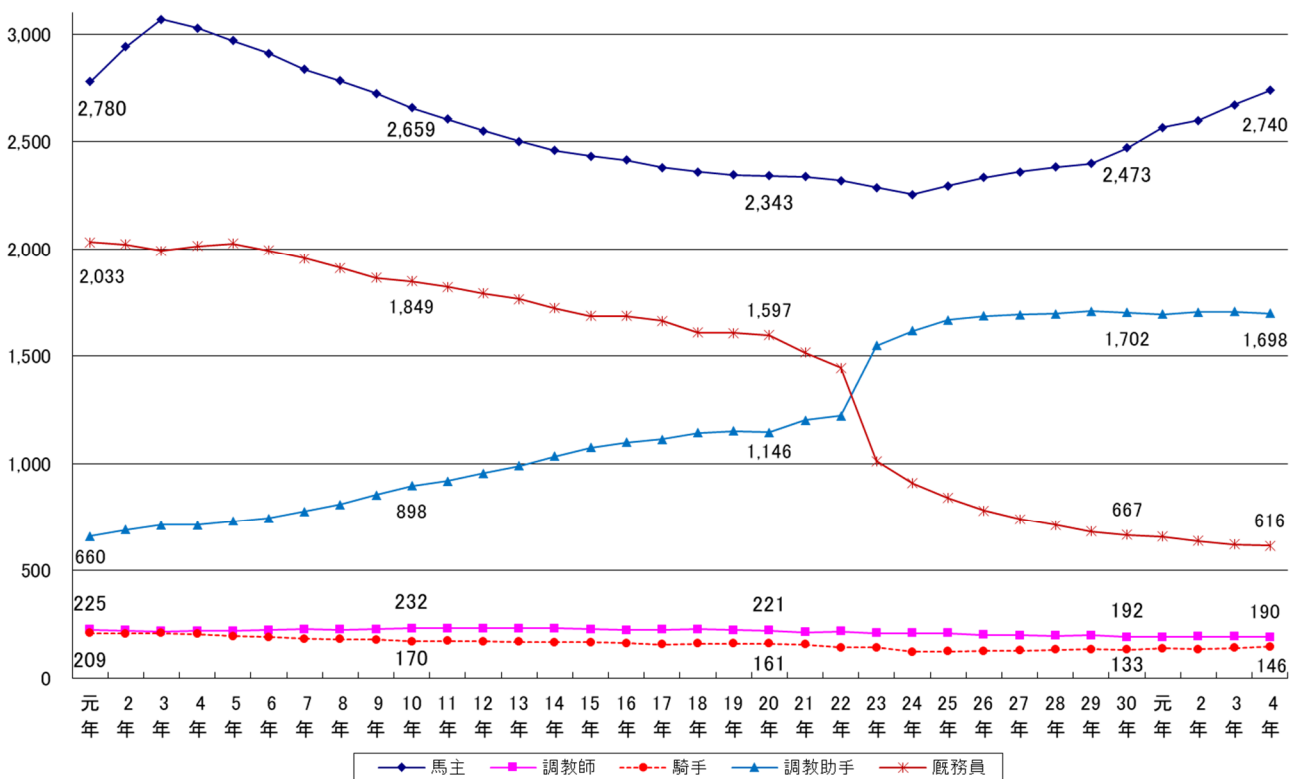
【別表7】 売得金の推移



【別表8】 電話・インターネット投票会員数の推移（平成元年以降）



【別表9】 馬主・調教師・騎手・調教助手・厩務員数の推移（平成元年以降）



【別表 10】

◎ 特別振興事業について

① 競馬振興事業（令和 4 事業年度）

【J R A 直接実施事業】

事業名	事業内容	実施額（円）
1. 競馬理解増進総合事業 （競馬場誘引型） （催事型） （メディア活用型） （馬事紹介型）	<ul style="list-style-type: none"> ・競馬場への来場を誘引するための催事の実施 ・競馬未経験層を主な対象としたキャンペーンや催事等の実施 ・メディア等を通じた競馬未経験層への理解増進 ・馬を活用した催事等の実施 	2, 928, 334, 595
2. 厩舎関係者救護体制円滑化事業	医療機器整備を通じた、競馬場等の近隣医療機関との連携強化	41, 256, 765
3. 厩舎関係者救護体制特別支援事業	新型コロナウイルス感染症蔓延下における関係医療機関に対する医療資源確保の支援	249, 523, 593
4. 競走馬の獣医師を目指す学生のための学業奨励事業	競走馬の獣医師を目指す大学の獣医学生を対象とした奨学金制度	29, 150, 000
5. 国際競馬振興事業	国際競馬振興関連経費、諸外国における日本競馬プロモーション展開等	95, 718, 950
6. 地方・中央競馬相互発売システム更新事業	地方・中央競馬相互発売のための本会発売システム更新	164, 900, 000
7. ギャンブル等依存症対策事業	全国公営競技施行者連絡協議会が実施するギャンブル等依存症対策に取り組む民間団体への支援等	13, 544, 579
8. 乗馬普及体制持続化特別支援事業	新型コロナウイルス蔓延下における乗馬普及、馬術振興の基盤となる大学馬術部の活動の維持・継続を目的とした支援	76, 000, 000
9. 東京2020大会の馬術競技開催に向けた馬事公苑整備工事に伴う「各種馬術競技会開催等支援事業」【直接実施分】	東京競馬場等の馬術競技会開催に必要な競技馬の確保等の支援	4, 273, 735
10. 東京2020大会を契機とする「馬術の裾野拡充」及び「引退競走馬のセカンドキャリア形成等に向けた取組み支援」事業【直接実施分】	馬術や乗馬の裾野拡充に資する映像情報の制作・提供、引退競走馬の諸課題に関する調査研究、障害者乗馬、ホースセラピー活動の支援・啓発等	746, 440, 583
11. 東京2020大会の馬術競技開催に伴う J R A 馬事公苑整備事業	J R A 馬事公苑諸施設の整備	2, 676, 305, 500
合 計		7, 025, 448, 300

【助成事業】

事業名	事業実施主体	事業内容	交付額(円)
1. ウォーキングマシン導入支援事業	(一社)日本調教師会	トレーニング・センターにおける調教補助設備(ウォーキングマシン)導入に係る支援	36,444,245
2. 引退名馬繋養展示事業	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	競馬の発展に貢献した名馬とのふれあい創出、名馬の余生の環境作り	55,170,000
3. 競走馬マイクロチップ埋込推進事業	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	マイクロチップ埋込に係る経費の一部補助	21,767,000
4. 日本競馬の情報・技術発信事業	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	海外へのレース映像配信、ウェブサイト等を通じた海外への日本競馬情報発信及び人材交流等を通じた技術発信	130,000,000
5. 地方競馬との共同広報事業	佐賀県競馬組合 特別区競馬組合 兵庫県競馬組合	地方競馬主催者と共同で行う情報提供・広報宣伝	241,900,280
6. 軽種馬改良情報システム 整備事業	(公社)日本軽種馬協会	軽種馬改良情報システムの整備	169,000,000
7. 地方競馬振興促進事業	愛知県競馬組合 兵庫県競馬組合	地方競馬場、発売施設の整備等	72,139,650
8. 競走馬理化学研究所における新薬物検査体制確立事業	(公財)競走馬理化学研究所	検査機関として IFHA から指定を取得し維持するために開発した新検査法による検査体制の確立	1,729,000,000
9. 競走馬理化学研究所における競走馬の遺伝子ドーピング検査法確立事業	(公財)競走馬理化学研究所	競走馬に対する不正な遺伝子操作の検査法の確立	109,100,000
10. 東京2020大会を契機とした馬術競技の国際的競技力の基盤強化及び馬事振興・乗馬普及等に資する「馬術競技強化等推進支援事業」	(公社)日本馬術連盟 (公社)日本近代五種協会	2024パリオリンピック・パラリンピック大会を目標とした馬術競技の強化、馬術振興・乗馬普及に結びつく事業等の実施	800,000,000 25,000,000
11. 東京2020大会の馬術競技開催に向けた馬事公苑整備工事に伴う「各種馬術競技会開催等支援事業」 【助成分】	(公社)日本馬術連盟 (公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会	馬事公苑整備工事に伴い影響を受ける各種馬術競技会が安定的に開催されるための支援	115,000,000 15,000,000
12. 東京2020大会を契機とする「馬術の裾野拡充」及び「引退競走馬のセカンドキャリア形成等に向けた取組み支援」事業【助成分】	(公社)全国乗馬倶楽部振興協会	馬に係る人材の養成、障害者乗馬・ホースセラピー活動の充実、引退競走馬の乗用馬への転用促進等	837,000,000
合計			4,356,521,175

②畜産振興事業（令和4事業年度）

事業名	事業実施主体	事業内容	交付決定額 (千円)
1. ニワトリ新規ゲノム育種マーカーの開発事業	国立大学法人 東海国立大学機構 名古屋大学	日本鶏の遺伝資源から気質と卵肉に優れた量的形質遺伝子座 (QTL) を発掘し、その情報に基づいて DNA マーカーを開発する。開発マーカーの有効性を実用鶏で確認し、高能力実用鶏を造成するための新規ゲノム育種基盤を確立する。	49,501
2. 牛伝染性リンパ腫発症予測診断技術開発事業	国立大学法人 東京大学	各発症関連遺伝子の診断法を構築し、それを組み合わせた総合的発症予知診断基準パネルを策定し、その有効性を検証する。	116,967
3. 生涯生産頭数増加への乳牛子宮環境改善技術開発事業	学校法人 東京農業大学	長期不受胎牛の子宮環境の根本的改善技術を開発し、繁殖性の亢進による乳牛の供用期間の延長技術を確立する。	67,795
4. 日本短角種の持続可能な生産システム開発事業	国立大学法人 東北大学大学院	日本短角種におけるゲノム情報を用いた遺伝的多様性評価法の確立を行う。	35,001
5. ICT と放牧の融合による持続的肉用牛生産事業	学校法人 北里研究所 北里大学	重要な自給飼料基盤でありながら潜在的価値が高い放牧の多面的機能に改めて着目し、放牧と舎飼いに最新の情報通信技術 (ICT) を組み合わせたハイブリッド飼養管理方式によって省力的かつ効率的な肉用牛の繁殖管理・子牛生産システムを確立、普及する。	25,927
6. GHG 排出削減と生産成績を両得する養鶏低蛋白質飼料開発事業	国立大学法人 東北大学大学院	養鶏では窒素排泄物から温室効果が高い亜酸化窒素が発生する。鶏では蛋白質摂取量が多いと窒素排泄物量が多くなるため、亜酸化窒素を削減するためには飼料の低蛋白質化が求められる。温室効果ガス (GHG) 排出削減と生産成績を両得する飼育方法を確立する。	83,834
7. 早期肥育現場におけるデータ駆動型スマート肉用牛肥育システムの展開事業	学校法人 近畿大学	肉用牛の産肉成績を肥育期間中に生体評価する技術を早期肥育の現場で実証する。血清タンパク質情報にゲノム情報を付加した機械学習により技術の予測精度を高め、早期肥育個体を対象とした前向き試験と顧客や現場ニーズを把握する現地調査を実施する。	21,379
8. 乳用子牛のスマート健康管理技術開発事業	学校法人 麻布獣医学園 麻布大学	体表温や活動量、起臥行動の変化を常時モニタリング可能な無線式小型尾部センサを用い、リアルタイムで個体毎の健康管理が可能な技術を開発する。	93,098
9. 耕畜連携による地域ブランド牛創出事業	国立大学法人 福島大学	激震・原発事故被害地域の稲作農家と畜産農家のマッチングによる地域ブランド創出に資する研究を行う。	20,546
10. 国産トウモロコシ子実の有用性の検証事業	国立大学法人 山形大学	水田輪作作物として子実用トウモロコシを導入した場合の GHG の排出低減効果を	104,183

		明らかにする。さらに安全で高品質な国産トウモロコシ子実を流通させるための栽培技術、乾燥調製技術等を検討し、その飼料特性を評価するとともに海外基準に準じて等級化する。	
11. 乳房炎好発牛鑑別マーカ-の実用化検証事業	国立大学法人 東京農工大学	候補因子の乳房炎好発牛鑑別マーカ-としての有効性を示すべく大規模調査を行うとともに、現場に即した検査手法を確立する。	58,909
12. 生殖器奇形原因遺伝子保因牛検査法開発事業	国立大学法人 東京大学	ミューラー管融合不全の原因遺伝子を特定し、遺伝子型検査による保因牛の鑑別と淘汰技術システムを開発する。	42,075
13. 稲作を基盤とした家禽用国産配合飼料開発事業	国立大学法人 神戸大学	我が国で生産できる米及びその米から生産される日本酒の製造粕(酒粕)を、それぞれトウモロコシと大豆粕の代わりに給与して生産された鶏肉・鶏卵の品質を明らかにすることに基づき、輸出可能な高付加価値鶏肉・鶏卵の生産を実現する家禽用国産配合飼料を開発する。	7,039
14. 普及性の高い乳房炎迅速診断技術開発事業	国立大学法人 広島大学	乳房炎乳遠心沈渣のグラム染色技術を、その微生物学的及び免疫病理学的診断能の検証・改良により、普及性の高い乳房炎迅速診断技術として開発・普及させる。	25,657
15. サシバエの被害調査と生物的防除法開発事業	国立大学法人 九州大学	養牛の吸血性害虫サシバエの発生調査を国内の多地点で実施し、サシバエ被害実態調査資料を作成する。また、天敵昆虫(寄生蜂)を用いた生物的防除法を開発する。	80,337
16. 牛子宮内胚情報の直接検出技術開発事業	国立大学法人 北海道大学大学院	スマート採取デバイスの構築と合わせた子宮内胚情報の直接検出による早期妊娠判定精度の向上のための検証を行う。	46,439
17. ウシの妊孕性向上システムの実用化事業	公立大学法人 宮城大学	卵巣や子宮の不妊の原因となる炎症関連物質を調べるとともに、卵胞活性化により卵巣内の胞状卵胞数を増やすことで妊孕性を改善させるための実用化を行う。また、卵子成熟抑制因子を用いて核の成熟と細胞質の成熟を同期化した卵子の新規成熟培養法の有効性を調べる。	93,095
18. 糞便移植の本格普及による子牛の下痢症制御事業	国立大学法人 東北大学大学院	優れた有効性を示す糞便移植のスーパードナーの発掘、広範囲での糞便移植の有効性の評価によるスーパードナー糞便を用いた普遍的技術としての確立及び有用微生物を凍結乾燥製剤として長期保存することによる安定性の評価により、応用開発基盤を構築する。	88,525
19. 乳牛の分娩間隔短縮技術実用化・検証事業	国立大学法人 北海道大学大学院	ペーパーマイクロチップ技術を生産現場で実用化するためにチップの改良とチップ使用時の分娩間隔短縮効果の検証を行う。	28,606

20. 優良種雄牛の高精度繁殖性改良技術開発事業	一般社団法人 家畜改良事業団	受胎率の高い種雄牛を高精度で検出するため、高受胎DNAマーカーを用いた遺伝子型頻度調査を行う。さらに高受胎に関連する遺伝子や外的要因を特定し、精液の受胎性を高位平準化する精液添加剤の開発等を行う。	96,484
21. 乳用牛の泌乳前期健全性改善指標開発事業	学校法人 酪農学園 酪農学園大学	近年の新たな乳中成分情報を活用し、泌乳前期の健全性改善のための遺伝的能力評価指標及び牛群管理指標を開発する。	59,206
22. 地域BLV検査センターと感染子牛センターを組み合わせた総合型牛伝染性リンパ腫清浄化モデル開発事業	国立大学法人 岩手大学	BLV検査センターを設置し、検査により感染状況を把握するとともに、感染母牛由来感染子牛は感染子牛センターに導入し、感染牛は清浄化対策を行う。	92,784
23. 乗用馬防疫推進事業	公益社団法人 全国乗馬倶楽部振興協会	乗用馬に対し、馬インフルエンザ、日本脳炎及び破傷風の3つの馬伝染性疾病の予防措置としてのワクチン接種の的確な実施を推進する。	40,293
24. 対米輸出牛肉血斑低減フォローアップ事業	公益社団法人 日本食肉生産技術開発センター	更なる血斑発生率の低減のため、各施設の血斑低減の取組の知見の交換の場を設置するとともに、牛に心拍計を装着しストレスと血斑発生の因果関係の調査分析等を行う。	105,533
25. 地鶏振興推進事業	一般社団法人 日本食鳥協会	地鶏振興推進委員会開催等事業、地鶏の情報収集・提供事業及び地鶏の販路拡大事業を実施することにより、地鶏振興を推進する。	58,652
26. 和牛の飼料利用性評価指標検討普及事業	公益社団法人 全国和牛登録協会	和牛種雄牛産肉能力検定直接法により得た余剰飼料摂取量に対し、DNAを用いて遺伝的能力評価の精度を高め、肥育時の飼料利用性との遺伝的関連性調査を実施し、飼料利用性の改良に寄与する種雄牛候補の選手法を検討する。	28,299
27. 初生ひな鑑別師養成及び記録映像作成事業	公益社団法人 畜産技術協会	肛門鑑別による初生雛雌雄鑑別の着実な継承を図るため、卵用種と肉用種の養成事業を一貫して行い、現役鑑別師の研鑽会を行う。また、鑑別師を育成するための初生雛肛門鑑別法の映像記録を作成する。	56,543
28. 養蜂GAPを導入した次世代育成調査研究事業	一般社団法人 トウヨウミツバチ協会	養蜂家が生産管理工程(GAP)を自ら実施するために必要な養蜂場の「適合基準」(養蜂GAP)及び「運用規則」を策定し、専門家の指導を受け試験運用を実施する。その上で「養蜂GAP導入の手引書」を作成し講習会等を開催する。	33,719
29. 畜産ティーン育成プロジェクト事業	公益社団法人 国際農業者交流協会	高等学校生徒を対象に畜産業が盛んな欧州各国において海外研修を実施する。また、研修成果を広く社会に発信し、次世代の畜産業従事者増加に資する啓発活動を行う。	24,915

		行う。	
30. 産業動物臨床獣医師卒後教育の ICT を活用した拡幅事業	国立大学法人 宮崎大学	令和3年度までに完成させた産業動物臨床獣医師の卒後教育プログラムを活用して、対象者地域を拡大して実施する。また、遠隔受講に対応した教材(2D及び3Dビデオ教材)を作成する。	45,808
31. 持続的肉用牛生産関連情報発信事業	一般社団法人 全国肉用牛振興基金協会	遺伝的多様性や環境負荷軽減の取組の現状を調査するとともに、関連の調査研究情報も収集し、生産者等と情報共有することで、その改善を促し、さらに全国各地の生産者と一体となった情報発信を行う。	19,479
32. 馬受精卵移植技術の実用化推進事業	公益社団法人 日本馬事協会	現在、帯広畜産大学の研究により平成30年度から受精卵移植(ET)技術の研究が実施され確立しているものの、フィールドにおいて定着されておらず、また多種多様な品種において未検討な状況となっていることから、ET技術を普及させる。	16,547
33. 酪農業における労働力確保人材育成支援事業	とからアグリワーク	十勝管内の酪農戸数維持と、雇用労働力の要員確保を目的として人材育成支援事業を展開する。	13,307
34. アジア地域臨床獣医師等総合研修及び家畜感染症防疫技術等の現地普及強化事業	公益社団法人 日本獣医師会	アジア諸国で家畜の診療・防疫業務等に従事する臨床獣医師等を我が国に招聘し、獣医学系大学等において先端的知識・技術を含む臨床業務等を修得させる。また、研修修了獣医師と常時の情報交換及び連携・協力体制を構築する。	269,535
35. コロナ感染症下の食肉消費動向等分析事業	公益社団法人 日本食肉消費総合センター	前年度に引き続き消費者WEB調査、食肉関連事業者の郵送調査・ヒアリング調査を行うほか、家計調査、POSデータの分析により、コロナ感染症下での食肉の流通・消費事情の変化を把握・分析して、その結果を関係者に提供する。	28,234
36. 新牛繁殖技術普及強化事業	一般社団法人 日本家畜人工授精師協会	指導者育成並びに実技研修会を開催して直腸検査技術習得の場を設け、繁殖成績の向上を図ると共に、関連する技術情報を提供する。公的数値の無い受胎率調査を全国規模で実施し、繁殖技術の水準を確認できるデータ情報の提供を継続する。	52,501
37. 肉用牛生産におけるGHG削減可視化システム構築事業	全国肉牛事業協同組合	暖気中メタンが削減できる飼料給与、排せつ物の早期の好気性発酵促進等、先進的な取組事例におけるGHG削減の実態を科学的に把握しつつ、理解しやすく可視化すること等により、肉用牛生産者に対し明確な対応方向を提示できる仕組みを構築する。	97,172
38. 凝集促進剤を含む固形分の堆肥化技術開発普及事業	一般財団法人 畜産環境整備機構	凝集促進剤を使用して分離した固形分の堆肥化について、国内の畜産農家において実態調査を行うとともに、その調査で得ら	101,496

		れた問題点などを解決するための当該固形分の堆肥化技術、製造される堆肥の利用技術の開発と普及を行う。	
39. 多角化による畜産経営強化調査事業	一般社団法人 全日本畜産経営者協会	商系畜産経営者の事例調査、意見交換等を通じて、今後の6次産業化を含めた多角化経営の発展方向や成功のためのノウハウ、失敗しないための留意事項などを「指針」として作成し、これから加工、販売、輸出等を志向する畜産経営者に供する。	16, 203
40. 馬飼養衛生管理特別対策事業	公益社団法人 中央畜産会	地域における馬獣医療を担う獣医師の衛生管理技術や、疾病の早期診断や病性鑑定技術の保持・向上を行い、競走馬以外の馬飼養衛生管理を充実させ、総合的な馬自衛防疫体制を確立する。	51, 459
41. 地域養豚生産衛生向上対策支援事業	公益社団法人 中央畜産会	豚主要生産地域の農場を含む自衛防疫組織が、これらの疾病の発生低減・清浄化のため、地域の状況に適応した対策を計画立案し、実施するための経費の助成を行う。	109, 484
42. 家畜防疫・衛生指導対策事業	公益社団法人 中央畜産会	国家防疫措置に併せて、地域における防疫演習、慢性感染症対応、馬伝染性貧血防疫等の自衛防疫活動を推進する。農場 HACCP 認証の推進に係る支援を総合的に実施するとともに、国際基準に沿って、労働衛生・環境等の概念を取り入れることについて検討する。	1, 023, 365
43. 馬伝染性疾病防疫推進対策事業	公益社団法人 中央畜産会	日本脳炎、破傷風、馬ゲタウイルス感染症等疾病に対する高い免疫の確保、維持・構築を図るため、生産者等と一体となったワクチン予防接種事業等を推進する。	217, 495
44. 豚枝肉の非破壊品質評価手法実用化調査事業	公益社団法人 日本食肉格付協会	昨年3月に策定・公表された「家畜改良増殖目標」に即して生産性・品質向上を目指す生産者による給与飼料や種畜の選択等の生産技術の改善に資するため、豚枝肉の非破壊での評価手法の高度化・実用化を図る。	37, 835
45. 牛遺伝的劣形質対策事業	一般社団法人 家畜改良事業団	既存の遺伝的劣形質への対応に取り組みつつ、これらの新たな遺伝子変異の調査が可能な手法を開発し、国内乳・肉用牛の大規模な検査を行い、専門委員会への情報提供及び畜産現場での利用促進を図る。	101, 675
46. ICT機器活用のための使用環境調査事業	公益社団法人 畜産技術協会	畜産現場におけるICT機器の使用環境、作業者の習熟度等を調査し、ICT機器の効率的利用に資する。	13, 392
47. 飼料用大豆・高栄養TMR生産調製実証事業	一般社団法人 日本草地畜産種子協会	タンパク質含量が高い国産の飼料用大豆について、イネ科牧草をリビングマルチとして栽培・利用する体系を確立し、これを活用した高栄養TMR生産調製技術を実証・普及させる。	96, 575

48. 豚における抗菌剤慎重使用普及事業	学校法人 麻布獣医学園 麻布大学	病性鑑定結果を管理獣医師に速やかにフィードバックする体制を確立し、養豚における抗菌剤慎重使用の普及に努める。	40,857
49. 人工授精によるめん羊山羊種畜生産推進事業	公益社団法人 畜産技術協会	めん羊・山羊の種畜生産における人工授精に関する情報の収集や受胎率調査等を実施し、人工授精の有効な活用方法等を提供するとともに、技術普及に向けた研修会等を開催する。	26,428
50. 黒毛和種における科学的知見収集事業	公益社団法人 畜産技術協会	我が国固有の種である黒毛和種における科学的知見に基づいた飼養管理上の適切な処置について提案するための調査を行う。	75,256
小 計			4,139,444

(注) 上記の各事業は、(公財) 全国競馬・畜産振興会を通じて実施するものである。

事業名	事業実施主体	事業内容	実績額 (千円)
畜産振興事業附帯事業	本会	学識経験者からなる審査委員会を設置し、新規事業を選定するとともに、特定法人において助成金交付業務を行う。また、学識経験者からなる評価委員会を設置し、事業評価を行う。	105,937
小 計			105,937
総 計			4,245,381

【別表 11】

JRA賞 受賞馬及び受賞者

1. 競走馬部門

	受賞馬	(馬主)	(調教師)
年度代表馬	イクイノックス	(有)シルクレーシング	木村 哲也 (美浦)
最優秀2歳牡馬	ドルチェモア	(株)スリーエイチレーシング	須貝 尚介 (栗東)
最優秀2歳牝馬	リバティア일랜드	(有)サンデーレーシング	中内田充正 (栗東)
最優秀3歳牡馬	イクイノックス	(有)シルクレーシング	木村 哲也 (美浦)
最優秀3歳牝馬	スターズオンアース	(有)社台レースホース	高柳 瑞樹 (美浦)
最優秀4歳以上牡馬	タイトルホルダー	山田 弘 氏	栗田 徹 (美浦)
最優秀4歳以上牝馬	ジェラルディーナ	(有)サンデーレーシング	斉藤 崇史 (栗東)
最優秀短距離馬	セリフォス	(株)G1レーシング	中内田充正 (栗東)
最優秀ダートホース	カフェファラオ	西川 光一 氏	堀 宣行 (美浦)
最優秀障害馬	オジュウチョウサン	(株)チョウサン	和田正一郎 (美浦)

2. 調教師・騎手部門

①調教師部門

JRA最多勝利調教師	矢作 芳人 (栗東)
JRA最高勝率調教師	中内田 充正 (栗東)
JRA最多賞金獲得調教師	矢作 芳人 (栗東)
優秀技術調教師	木村 哲也 (美浦)

②騎手部門

最多勝利騎手	川田 将雅 (栗東)
最高勝率騎手	川田 将雅 (栗東)
最多賞金獲得騎手	川田 将雅 (栗東)
騎手大賞	川田 将雅 (栗東)
MV J	戸崎 圭太 (美浦)
最優秀障害騎手	石神 深一 (美浦)
最多勝利新人騎手	今村 聖奈 (栗東)
特別賞	柴田 善臣 (美浦)